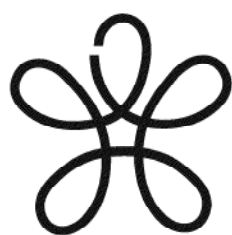


国際学部履修要項

2018

平成30年度



近畿大学

この履修要項は平成 30 年度国際学部入学生に適用されます。
履修要項は再配布しませんので、卒業まで大切に保管してください。

目 次

はじめに	1
近畿大学教育方針	3
国際学部教育方針	3
I 学部の構成と制度	5
1. 国際学部の構成	5
2. 学期と授業時間	5
3. 授業科目の構成	5
4. 単位制	6
5. 学年制	6
6. 卒業	6
II 科目の履修・学修と単位の修得	6
1. 学修に求められる「誠実さ」について	6
2. 履修登録と単位の修得	7
学年配当制	7
履修登録と履修計画	7
履修計画から単位修得までの流れ	7
通常履修・再履修	7
休学と単位修得	7
3. キャップ制	8
4. 休講と補講	8
気象警報および交通機関のストライキ等による休講措置	8
補講について	9
5. IC リーダーによる出欠管理	9
6. 欠席届	9
7. 試験	9
定期試験	9
追試験	9
再試験	9
受験資格	10
不正行為等受験時の注意	10
8. 国際学部追試験規程	10
9. 国際学部再試験規程	11
10. 国際学部定期試験等における不正行為に関する規程	11
11. 成績評価と GPA 制度	12
成績評価	12
GPA (Grade Point Average) 制度	12

履修の取り下げ	13
成績通知（成績通知書と成績証明書）について	13
成績照会	13
12. オフィス・アワーとアセンブリー・アワー	13
13. 授業評価アンケート	13
14. 掲示と学生ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）	13
III 留学	15
国際学部の留学	15
1. 留学の概要	15
2. 留学の準備と留学先の決定	15
3. 留学中の心得	15
4. 禁止事項・注意事項	15
5. 単位の互換と成績	15
6. 国際学部留学に関する規定	15
全学的な留学・語学研修	18
1. 交換留学・派遣留学・認定留学	18
2. 語学研修	18
IV 教職課程と日本語教員養成課程	18
1. 教職課程	18
2. 日本語教員養成課程	18
V 各種制度・案内	19
1. 学長賞、学部長賞等	19
2. 奨学金制度	19
3. 成績優秀特待生制度	19
4. 転学部	19
5. 休学・復学	19
6. 除籍・復籍・処分	20
7. 退学・再入学	20
8. 定期健康診断	20
VI 授業科目と履修方法	21
1. カリキュラム表	21
2. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表	23
卒業・履修要件：共通教養科目および外国語科目	23
授業科目表：共通教養科目	23
授業科目表：外国語科目	24
3. 専門科目（学部共通開講科目）：卒業・履修要件と授業科目表	25

卒業・履修要件：学部共通開講科目	25
授業科目表：学部共通開講科目	25
履修上の注意	25
4. 専門科目（学部共通開講科目以外）：卒業・履修要件、進級要件と授業科目表	26
(1) グローバル専攻	26
卒業・履修要件	26
進級要件	24
授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門基礎科目・専門発展科目	26
履修の流れ	30
(2) 東アジア専攻 中国語コース	32
卒業・履修要件	32
進級要件	32
授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目	32
履修の流れ	33
(3) 東アジア専攻 韓国語コース	35
卒業・履修要件	35
進級要件	35
授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目	35
履修の流れ	36
VII 国際学部国際学科カリキュラム・ツリー	38
グローバル専攻	38
東アジア専攻中国語コース	39
東アジア専攻韓国語コース	40
VIII 校舎・講義室等の配置図	41
教員研究室一覧	42
時間割表	43

はじめに

最近頻繁に耳にする「グローバル人材」とは一体どういう人を指すのでしょうか。言うまでもなく語学力はその必須条件ですが、語学力のみで世界で活躍することはできません。真のグローバル人材とは、(1) 高いコミュニケーション能力を有し、(2) 自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、(3) 自主性と協調性を持って行動でき、(4) 幅広い教養と専門性を備えた人であると私たちは考えます。また、そうした人材を輩出するのが近畿大学国際学部の使命と考えています。

本学部が大学生活のきわめて早い時期に留学を課すのも、上で述べた資質を最大限に引き出し、かつ育むことを目指すからにはほかなりません。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、他者を尊重する心、自主性や協調性といったものは、まさに留学という経験を通して最大限引き出されるものですし、幅広い教養と専門性はそれらの経験の上に培っていくものです。留学後の学習ではこれらの資質をさらに高め、世界中の人々と堂々と渡りあえる社会人となるべく準備をしていきます。

大学における学習とは単に必修科目をとり、単位を積み上げていくものと思われがちですが、これからの皆さんの学習基盤となるカリキュラムには、上で述べたグローバル人材育成という大きな目的が含まれていることを心に留めておいてください。それによって、より有意義な大学生活を送ることができることでしょう。

履修要項は皆さんが卒業するまでの4年間のacademic lifeの道しるべであり、またルールブックでもあります。まず通して読んでください。そしてスムーズな大学生活を送ることができるよう、常に手元に置いておきましょう。

最後になりますが、英語、中国語、韓国語でも「はじめに」を記載したので、是非自分の専攻言語で読んでみてください。

Introduction

The term “Global Human Resources” is often heard these days, but what kind of people does this refer to? Needless to say, language skills are necessary, but these alone are not sufficient for success in the international arena. The true qualities of a global citizen include: 1) strong communication skills; 2) a deep respect and understanding of one’s own culture and the cultures of other countries; 3) the ability to act both autonomously and in cooperation with others; and 4) a grounding in both liberal arts and specialized subjects. It is the mission of the Faculty of International Studies at Kindai University to nurture and instill these qualities in all of our graduates.

To fully achieve this goal, all students in our program study abroad early in their university education. The study abroad program cultivates communication and presentation skills, fosters the ability to work autonomously and cooperate with others, and this experience facilitates learning in the liberal arts and specialized subjects. Upon return, the knowledge and skills acquired abroad will be further strengthened through studies and coursework in the faculty to thoroughly prepare graduates for active and effective participation in global society.

One might think that the objective of university education is to merely accumulate a certain number of course credits for graduation. However, students should bear in mind throughout their academic studies that the ultimate objective of this faculty’s curriculum is to develop the skills and talents outlined above in order that they will become global citizens. By so doing, students will experience a more fulfilling and meaningful university life.

Throughout the four years that you are enrolled in the university, you should use this Academic Handbook as both a guide for your academic life and as a rulebook. You should keep it at hand so that you can have a smooth academic career.

前言

“全球化人才”一词我们已经耳熟能详，但是，怎样的人才才可以称为“全球化人才”呢？语言能力固然是其必备的条件，但是，单凭语言能力还是很难在国际舞台上显露头角的。我们认为，真正的“全球化人才”应具有以下特质：一，拥有高度的沟通能力；二，尊重本国及他国文化、拥有接受多元文化的能力；三，拥有自主性和协调性；四，有较高的修养和较强的专业性知识。培养具有这些特质的“全球化人才”，正是近畿大学国际学部的使命。

为了迅速而有效地培养同学们的上述资质，我们学部将在入学的第一年安排所有同学去留学。因为沟通能力、表达能力、对异国文化的尊重以及自主性和协调性，只有通过留学体验才可以得到最好的培养和锻炼。而修养及专业性知识也是在此基础上才得以积累的。留学生活中培养的资质，在今后的学习生活中可以得到进一步的提升，为将来成为能与世界各国人士进行良好沟通的人才奠定基础。

大学的学习生活往往被认为是一个学习必修课程、积累所需学分的一个单纯的过程，其实并非如此。我们希望同学们牢记的是：近畿大学国际学部课程设置中的每一个环节都是以培养具有上述特质的“全球化人才”为目的的。相信在这样的方针指引下，大家一定会在这里渡过更有意义的大学生活。

本“履修要项”是4年学术生活指引方向的航标、行为规范的准绳，也是顺利渡过大学生活的保障。请大家务必仔细阅读，并随时带在身边。

머리말

요즘 자주 듣는 “글로벌 인재”란 대체 어떤 사람을 두고 하는 말일까요?

물론 외국어 능력은 필수 조건이지만 외국어 능력만으로 글로벌 세계에서 활약하기는 어렵습니다. 진정한 글로벌 인재란, (1) 뛰어난 의사소통 능력을 가지고, (2) 자국 문화와 타국 문화를 존중하면서 다면적으로 이해하고, (3) 자주성과 협조성을 가지고 행동할 줄 알며, (4) 폭넓은 교양과 전문성을 갖춘 사람이라고 저희들은 생각합니다. 그리고 이러한 인재를 양성하여 배출하는 것이 건키대학교 국제학부의 사명이라고도 생각하고 있습니다.

국제학부가 대학생활 초기에 1년간 유학을 정규과정으로 정한 것도 앞서 말한 자질을 최대한 끌어냄과 동시에 육성하는 것을 목표로 하기 때문입니다. 커뮤니케이션 능력과 프레젠테이션 능력, 남을 존중하는 마음, 그리고 자주성과 협조성이라는 것은 유학이라는 경험을 통해 최대한 끌어낼 수 있는 것이며, 폭넓은 교양과 전문성도 유학의 경험으로 인해 길러지는 것입니다. 유학 후의 학습에서는 이러한 자질들과 폭넓은 교양과 전문성을 더욱 높여 전세계 사람들과 당당하게 자기 의견을 표현할 수 있는 사회인이 될 수 있도록 준비해 갈 것입니다.

대학에 있어서의 학습이란, 단지 필수 과목을 이수하고 학점을 받는 것으로 생각하기 십상이지만, 앞으로 여러분의 학습 기반이 될 교육 과정에는 앞서 말한 글로벌 인재 육성이라는 큰 목적이 포함되어 있음을 명심하기 바랍니다. 그에 따라 더욱 의미있는 대학 생활을 보낼 수 있을 것입니다.

이수요항은 여러분이 졸업할 때까지 4년간의 academic life 도표이며 또한 규칙집이기도 합니다. 먼저 전체를 읽어 보십시오. 그리고 원활한 대학생활을 보낼 수 있도록 항상 곁에 두십시오.

끝으로 영어, 중국어, 한국어로도 ‘머리말’을 기재하였기 때문에 꼭 자신의 전공 언어로 읽어 보십시오.

近畿大学教育方針

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「共通教育科目」と「専門教育科目」を2本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座等のプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員がともに学び合う機会を提供します。

1. 入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供します。
2. 専門教育に携わっている教員が教養教育（共通教育科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。
3. 「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進めます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性の育成に努めます。
4. さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するために、国際スタンダード教育への参加を進めます。
5. 産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すこと」を最終教育目標としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質を以下に示します。

1. 大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。
2. 問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。
3. 専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。
4. 異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

国際学部教育方針

カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際学部は、国際人としてふさわしい語学力、教養、専門性をもち、多様性の中で積極的に行動する力を養成するために、以下のようなカリキュラムを編成しています。

<全学共通科目：共通教養科目>

ますます複雑化するこれからの社会を主体的に生きるために必要な幅広い知識を身につけるだけでなく、自らの文化・社会を理解しつつ、グローバル社会を多面的に捉える力を身につけることを目指しています。また、ICT技術を活用でき、自ら問題を解決し、自らの進む方向を見据える力の養成も重視します。

<全学共通科目：外国語科目>

専修言語（英語、中国語、韓国語）の他にも外国語を運用できることは、グローバル社会で大きな力となります。国際学部では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語に加えて、アジア地域で活躍する人材育成のため、タイ語とベトナム語を開講します。それぞれ、「入門」、「基礎」、「中級」、「上級」の4つの段階を置き、順を追って確実に修得していきます。

<専門科目：学部共通開講科目>

国際学部の特色である留学に対する準備をおこない、早期の国際経験を有意義にするための知識や自主性を身につけます。同時に、留学後の専門教育を将来の進路に活かすため、ビジネス、通訳・翻訳、中国語、韓国語、日本語教育、英文学、体験型科目のような多岐にわたる科目で視野を広げます。

<専門科目：セミナー科目>

少人数の教育環境で議論を深め、自主性を養成します。留学前の「留学セミナー」と帰国後の「帰国後セミナー」は、留学を実りあるものにし、その成果を確認し、帰国後の学修を方向付けます。3年次と4年次の「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」では、専門分野の研究方法を学び、指導を受け、自主的に研究を進め、「卒業プロジェクト」として完成させます。

<専門科目：言語科目・留学科目>

専修言語の運用能力を高めます。英語は、基礎を確認しつつ強化し、留学で実践力を磨き、帰国後の学修で応用力を身につけます。中国語と韓国語は初修言語であるため、入門レベルから始め、留学によってコミュニケーション力を身につけ、最終的にはさまざまな状況で有意義なコミュニケーションが行えるレベルに到達することを目指します。

<専門科目：専門基礎科目・専門発展科目>

グローバル社会で活躍する人材として必要な知識を修得するために、幅広い分野の科目を体系的に配置しています。グローバル専攻では、2年次の専門基礎科目で基礎的知識を学び、3年次より「グローバル・スタディーズ」、「コミュニケーション・スタディーズ」、「アジアン・スタディーズ」に分かれて専門性を深めます。東アジア専攻では、中国語コース、韓国語コースとも、基礎から応用へと順を追って専門知識を深めていきます。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

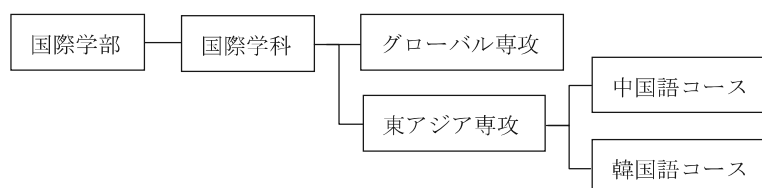
国際学部では、近畿大学の建学の精神と教育理念に基づき、留学と多彩な科目の学修を通して、国際人としてふさわしい語学力、教養、専門性を身につけ、異なる文化や社会の架け橋となる人材の育成を目標としています。この目標のために、厳格な成績評価によってカリキュラムを運営し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（国際学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質や能力は、以下のとおりです。

1. 幅広い教養と国際的な体験にもとづいて、柔軟な考え方や判断ができること。
2. 自らの専門分野についての学識を有し、課題解決が行えること。
3. 専門とする言語の意味や構造を十分に理解し、高いコミュニケーション能力を身につけていること。
4. グローバル社会において、自らのアイデンティティを意識し、言語・文化・考え方の違いを乗り越え、他者との信頼関係を構築できること。
5. 多様な考え方や価値観の存在を認め、それを踏まえた対話を通し、よりよい価値を生み出す努力ができること。

I 学部の構成と制度

1. 国際学部の構成

国際学部の構成は、以下のとおりです。



2. 学期と授業時間

学期は、「前期」と「後期」の二期に分かれています。

第1学年	前期	後期（留学）
第2学年	前期（留学）※	後期
第3学年	前期	後期
第4学年	前期	後期

一部を除いたほとんどの科目は、前期または後期の半年間履修することによって完結します。前期・後期の授業開始および終了日は毎年変わるので、日程は国際学部掲示板や学生ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT（以下、UNIPA））等で連絡します。

※ 国際学部では専攻によって留学期間が異なるため、帰国後の授業開始時期も異なります。グローバル専攻では、第2学年前期の後半からいくつかの科目の授業が始まり、東アジア専攻では、第2学年後期から授業が始まります。

授業は原則として第1時限から第5時限まで開講されます。ただし、教職課程科目については第6、7時限に開講される場合があります。各時限の時間帯は以下のとおりです。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

第6時限	第7時限
18:25～19:25	20:05～21:35

また、上記の授業時間帯以外に集中講義科目等が開講される場合があります。

3. 授業科目の構成

国際学部の教育課程では、次に示す科目区分があります。大半の科目区分には、必ず単位を修得しなければならない科目（必修科目）と、指定された方法で選択して単位を修得する科目（選択科目）があり、卒業や進級に備えて計画的に履修しなければなりません。

	グローバル専攻	東アジア専攻
全学共通科目	共通教養科目（必修科目あり）	共通教養科目（必修科目あり）
	外国語科目	外国語科目
専門科目	学部共通開講科目（必修科目あり）	学部共通開講科目（必修科目あり）
	セミナー科目（必修科目あり）	セミナー科目（必修科目あり）
	言語科目（必修科目あり）	言語科目（必修科目あり）
	留学科目	留学科目
	専門基礎科目	
	専門発展科目（必修科目あり）	専門発展科目（必修科目あり）

4. 単位制

近畿大学では「単位制」を採用しています。履修登録を行い、授業に出席し、試験その他の方法で成績の評価を受けて合格点を得た場合に、所定の単位が授与されます。単位の計算基準は、次のとおりとします。(科目の具体的な単位数は、授業科目表を参照してください。)

- (1) 講義は、毎週1時限の授業を半期で2単位とする。
- (2) 実習および演習による科目は、科目の授業時間数に応じて半期で1~3単位とする。
- (3) 留学科目については、科目の性質に応じて1~4単位とする。

5. 学年制

近畿大学では「学年制」を採用しています。本学の修業年限は4年とします。4年を超えて在学することはできませんが、8年を超えて在学することはできません。学年制では、「第1学年」「第2学年」「第3学年」「第4学年」しか存在しません。在学年数が直ちに当該「学年」を意味するわけではありません。したがって、たとえば、在学年数が4年であっても単位数が進級要件を満たさなければ第3学年生ということがあります。

6. 卒業

近畿大学に4年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して卒業資格を得た者には、卒業証書・学位記を授与します。

II 科目の履修・学修と単位の修得

1. 学修に求められる「誠実さ」について

授業や指示された授業外の課題、レポート、論文、試験など、大学ではさまざまな学問的な活動があり、それらには誠実な態度で取り組まなければなりません。下記をよく理解した上で、国際学部での学修に臨んでください。

① 授業への出席

授業に出席することは学生の義務です。各授業の出欠に関する取り決めは、「シラバス」に記載されたり学期冒頭に授業担当教員から示されたりして周知されます。欠席は成績評価を下げ、試験を受ける資格を失い、単位を落とすことにつながります。

② 出席に関する虚偽

授業に限らず、学修活動のあらゆる機会において、出席していないのに出席したように報告すること、また、他人の協力を得たり、出席管理システムを悪用したりして出席を装う行為は厳に禁止します。

③ 受講態度

授業中は学修に専念しなければなりません。飲食、無許可の携帯機器の操作、私語、その他、他の学生の学習権を侵害する行為をしてはいけません。

④ 剽窃

他人の文章、アイデア、発見、データ、図表、作画、写真などを、それが他人のものであることを示さずに自分のレポートや論文、プレゼンテーションなどで使うことは「剽窃（ひょうせつ）」と呼ばれ、学問の世界では重大なルール違反です。他人のものを使う場合は、出典を示すなど「引用」のルールに従う必要があります。情報がデジタル化され、他人の文章などの検索が容易な時代ですから、特に注意する必要があります。レポートなどの課題に剽窃があった場合、評価は著しく下がります。

⑤ ねつ造・改ざん

存在しないことや事実でないことを、まるで存在し、事実であるかのように述べることを「ねつ造」と言います。

また、事実や実際の結果を都合よく変えることは「改ざん」と呼ばれます。これらの行為も、「剽窃」と同じように厳に禁止します。

⑥ 許可を得ない共同作業

単独で行わなければならない課題は、他人と協力せず単独で行わなければなりません。共同で行うべき課題は、教員からそのように指示されるものに限りません。

⑦ 不誠実な行為への協力

上記に例示したような学修に関する不誠実な行為に協力した場合、協力者も同様に不誠実な行為を行ったとみなされます。

2. 履修登録と単位の修得

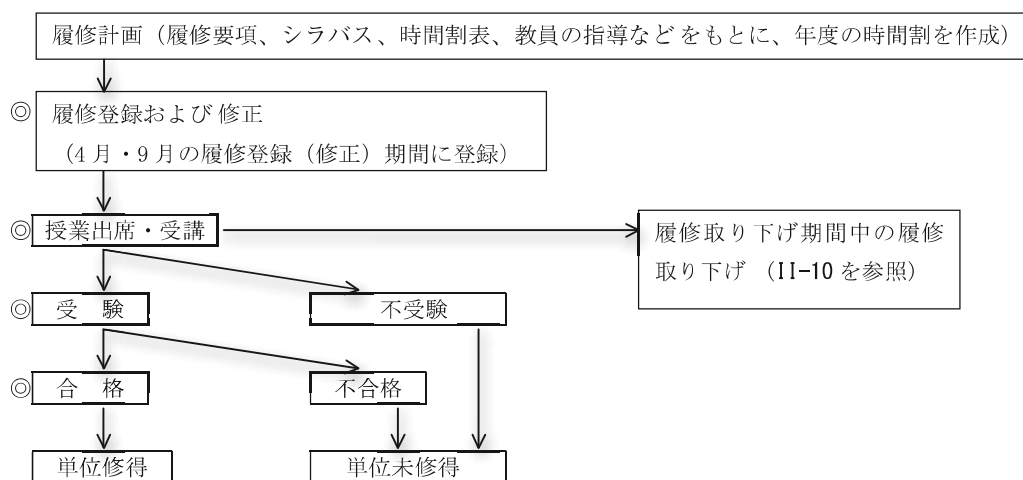
学年配当制

大学の科目は「学年配当制」に基づいて授業が行われます。学年配当制では、当該科目の配当学年より上級の学年生はその科目を履修できますが、下級の学年生は履修できません。たとえば、第2学年に配当されている科目について、第1学年生はこれを履修できませんが、第2・3・4学年生は履修できることになります。

履修登録と履修計画

科目を履修するには、あらかじめ履修登録する必要があります。履修登録は、毎年度4月に設定される履修登録期間にWEB履修登録によって、その年度の前期分の授業と後期分の科目を一括して登録します。また、後期分の授業については、9月の履修登録修正期間に登録・修正することもできます。履修登録期間および方法等の詳細については、別途ガイダンス等を通じて説明します。

履修計画から単位修得までの流れ



通常履修・再履修

科目の履修は、当該年度に配当された科目を履修する「通常履修」と、前の学期や年度に単位を修得できなかった科目を再び履修する「再履修」とに分けられます。不合格科目については、その科目が必修科目の場合は再履修する必要がありますが、必修科目でない場合は、卒業資格単位数が不足している場合を除いて、再び履修する必要はありません。また、すでに単位を修得した科目を再び履修することはできません。

休学と単位修得

休学期間中は、本学の科目を履修し単位を修得することはできません。また、休学期間中に個人的に留学し修得した海外の大学等での単位は本学部では認定されないの注意してください。詳細は国際学部事務部まで問い合わせてください。

3. キャップ制

前期・後期に履修登録できる単位の上限を設定する制度を「キャップ制」と呼びます。その目的は、履修した科目の学習時間（予習・復習を含む）を確保し、授業内容を十分に身につけるため過度に多くの科目を履修しないようにするためです。国際学部ではこのキャップ制を採用し、各学期24単位とします。ただし、下記に記載する科目（※）等はこれに含みません。

※キャップ制除外科目

- ①学部共通開講科目：「体験プログラムA」「体験プログラムB」「インターンシップA」「インターンシップB」
- ②教職課程科目のうち、卒業要件とならない科目

4. 休講と補講

気象警報および交通機関のストライキ等による休講措置

下記のような理由により授業を休講または短縮することがあります。

(1) 気象警報による休講

特別警報又は暴風警報が次表のいずれかの地域に発表された場合、(3) のとおり休講措置を行います。また、授業時間中に特別警報又は暴風警報が発表された場合は、授業を中止して休講とします。

	地域	市町村
大阪府	大阪市	大阪市
	北大阪	豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、島本町、豊能町、能勢町
	東部大阪	守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四条畷市、交野市
	南河内	富田林市、河内長野市、松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、太子町、河南町、千早赤阪村
	泉州	堺市、岸和田市、泉大津市、貝塚市、泉佐野市、和泉市、高石市、泉南市、阪南市、忠岡町、熊取町、田尻町、岬町
兵庫県	阪神	神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市、猪名川町
奈良県	北西部	奈良市、大和高田市、大和郡山市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、高取町、明日香村、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
	五条・北部吉野	五条市北部、吉野町、大淀町、下市町
京都府	京都・亀岡	京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
	山城南部	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村

(2) 交通機関のストライキによる休講

次のいずれかに該当する場合、(3) のとおり休講措置を行います。

- ①近畿日本鉄道が運行停止となった場合。
- ②JR西日本「大阪環状線」および大阪市営地下鉄が同時に運行停止になった場合。

(3) 気象警報および交通機関のストライキによる休講は、暴風警報が解除またはストライキが終了した時刻により、以下のとおり定められています。ただし、特別警報が発表された場合は、終日休講とします。

- ①午前6時までに解除・終了された場合は、平常どおり授業を行います。
- ②午前10時までに解除・終了された場合は、3時限目から授業を行います。

- ③午後1時までには解除・終了された場合は、6時限目から授業を行います。
- ④午後1時を過ぎても解除・終了されない場合は、全時限休講とします。
- (4) 特定の地域に避難勧告・指示が発表された場合は、当該地域に居住する学生は、終日公認欠席とします。ただし、公認欠席の手続きについては、速やかに国際学部事務部に申し出てください。
- (5) 上記以外に、特別な状況に応じて、授業を短縮または休講とすることがあります。

補講について

補講は、休講があった科目について、本来の時間割とは異なる日程で調整し実施されます。日程や教室については学生ポータルサイト（UNIPA）にてお知らせします。日程・教室等は変更になる場合がありますので、随時確認してください。

5. ICリーダーによる出欠管理

近畿大学では、ICリーダーを用いて出欠管理を行っています。出席登録は教室の入り口近くにあるICリーダーに学生証をかざすことで行います。学生証は常に携帯し、授業の開始時には忘れずに出席登録をしてください。なお、授業開始時間より5分後以降は遅刻となり、30分後には受付終了となります。また、履修登録期間中に学生証をかざした場合ICリーダーには「未登録」として赤く表示されますが、履修登録期間終了後にその登録は正規の出席として読み替えられますので、履修登録期間中においても必ず出席登録をしてください。

6. 欠席届

病気・ケガ等で欠席した場合は、欠席届の用紙（所定の様式）に欠席理由を証明する書類を添えて、国際学部事務部で手続きし、各自で授業科目担当教員に提出してください。

病気等・・・病院等の診断書

忌引き（三親等以内）・・・会葬礼状

なお、教育実習および介護等体験による欠席届は学務部で、課外活動（試合参加等）の場合は学生部等で手続きし、各自で授業科目担当教員に提出してください。

7. 試験

試験には、「定期試験（前期試験、後期試験）」、「追試験」および「再試験」があります。

定期試験

定期試験とは、各学期末に、履修登録済みの科目において実施される試験のことをいいます。定期試験の時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なりますので、注意してください。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限
9:30～10:30	11:00～12:00	13:30～14:30	15:00～16:00	16:45～17:45	18:30～19:30	20:00～21:00

追試験

追試験とは、定期試験を受験する資格があるにもかかわらず、病気や不慮の事故等の正当な理由により定期試験を受験することができなかった科目について受けることができる試験のことをいいます。

再試験

再試験とは、第4学年に在籍し、当該年度で卒業所要単位数に達せず、その不足単位数が6単位以内の者で、当該年度において不足当該科目の履修登録をして定期試験または追試験を受験、あるいは定期試験に準じる課題を提出して、不合格となった者に対して行う試験をいいます。「定期試験に準じる課題」については、「8. 国際学部再試験規程」を参照してください。ただし、「セミナー 1」、「セミナー 2」、「セミナー 3」、「卒業プロジェクト」、「体験プログラム A」、「体験プログラム B」、「インターンシップ A」、「インターンシップ B」は再試

験の対象となりません。

受験資格

上記の試験における受験資格は以下の条件をすべて満たしている場合です。受験資格のない者は、たとえ試験を受験しても無効となります。

- ①その科目を履修登録している者
- ②学生証を所持している者（試験当日学生証を忘れた場合は、国際学部事務部または学生部で「仮学生証」の発給を受けてください。手数料がかかります。）
- ③授業料等学費を適切に納付している者

不正行為等受験時の注意

- (1) 試験での不正行為は絶対に許されません。不正行為があった場合は、学則および国際学部試験規程に基づき厳正に処分します。
- (2) 試験開始後20分以上遅刻した者は受験できません。
- (3) 試験開始後45分を経過しなければ、退室はできません。
- (4) 「試験開始」の指示の後、答案用紙に「科目名」「担当者名」「学部学科」「学年」「学籍番号」「氏名」を、黒のペン又はボールペンで最初に明瞭に記入すること。記入されていないものは無効になります。
- (5) 試験中に物品（筆記具、消しゴム、その他）の貸借は認めません。
- (6) 答案用紙の試験場からの持ち出しは禁止します。
- (7) 答案用紙は一部ずつ配付し、破損の場合に限り新しい用紙と交換します。
- (8) その他、受験態度不良もしくは試験監督者の指示に従わない者には受験の停止を命じることがあります。

8. 国際学部追試験規程

第1条 追試験については、本学学則第19条に基づき、この規程を定める。

第2条（受験資格及びその手続き）

定期試験を受験する資格を有するにもかかわらず、病気・不慮の事故等正当な理由により、専門科目、共通教養科目及び外国語科目につき定期試験を受けることができなかつた者は、追試験の受験を申請することができる。

- 2 申請者は、追試験受験申込書に必要な証明書を添付して、追試験受験の申請をしなければならない。
- 3 追試験受験資格者は、本学部で審査のうえ、認定する。
- 4 第1項に規定する正当な理由は、下記を含む。
 - (1) 病気
 - (2) 3親等以内の親族の危篤および死亡
 - (3) 被災
 - (4) 交通機関の遅延・停止
 - (5) 就職試験・大学院入試など日程変更が困難な重要な事由
- 5 前項(5)による場合は、事前に国際学部事務部に報告・相談しなければならない。

第3条（受験科目）

当該学期に履修登録した科目に限り追試験を実施する。

第4条（追試験日程及び実施方法）

追試験日程及び実施方法は、別途通知する。

第5条 追試験については、受験料を徴収する。

- 2 前項の規程により納入された受験料は、追試験を受けなかつた場合においても、これを返還しない。

附 則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

9. 国際学部再試験規程

第1条 再試験については、本学学則第19条に基づき、この規程を定める。

第2条（受験資格及びその手続き）

本学部4年生で、専門科目、全学共通科目の修得単位数の合計が124単位以上の学生に限る。

2 申請者は、再試験受験申込書に必要な事項を記入して、再試験受験の申請をしなければならない。

3 再試験受験資格者は、本学部で審査のうえ、認定する。

第3条（受験科目の制限）

受験できる科目は、専門科目（卒業プロジェクトを除く）、共通教養科目及び外国語科目のうち、当該年度の履修登録をしたうえで、定期試験・追試験を受験し不合格になった科目、または定期試験に準じる課題を提出して不合格になった科目に限る。

2 定期試験に準じる課題とは、定期試験期間中に提出期限が設定され、定期試験の一環として指定される課題とする。授業期間中に課され、回収される課題はこれに含まれない。

3 再試験は、卒業資格単位に不足する単位数に該当する科目数まで受験することができる。ただし、6単位分を超えることはできない。

第4条（受験科目の評価）

再試験受験科目の評価は、60点を最高得点とする。

第5条（再試験日程及び実施方法）

再試験日程及び実施方法は、別途通知する。

第6条 再試験については、受験料を徴収する。

2 前項の規程により納入された受験料は、再試験を受けなかった場合においても、これを返還しない。

附 則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

10. 国際学部定期試験等における不正行為に関する規程

第1条 次の事項に該当する行為は不正行為とする。

- (1) 本人が自分に代えて他人を受験させたとき
- (2) カンニングペーパー、参照を許されていない教科書・ノート・参考書等や、他人の答案等を盗み見たとき、あるいは携帯電話等の電子機器を使ってカンニングを行ったとき
- (3) 他者による(1)または(2)の行為に故意に協力したとき
- (4) その他試験の公正を害したとき

第2条 不正行為を行った者の以降の試験の受験資格等は次のとおりとする。

- (1) 前条に定める不正行為を行った者は、学則第41条により処分される。またその不正行為が摘発された時から、その試験期間中のすべての科目の受験資格を停止し、当該学期に履修登録したすべての科目の成績を無効とする。
- (2) ただし、第1条第4項にかかわる行為においては、当該試験科目のみを無効とする場合がある。

第3条 不正行為に関わる措置と手続きは次のとおりとする。

- (1) 試験期間は、実施日ごとに試験実施責任者をおく。試験実施責任者は学部長が任命する。
- (2) 試験監督者は、不正行為を発見したとき、ただちに当該学生の答案用紙など証拠となるものを取り上げ、学生証を預かり、そのまま試験場に待機させ、試験終了後、試験実施本部へ連れていく。
- (3) 試験監督者は、試験終了後試験実施責任者に不正のあった旨を報告する。
- (4) 試験実施責任者は、試験監督者ととも当該学生（第1条第1項の場合は代人も）から事情や弁明を聞き、処分の決定があるまで自宅等で待機するよう命じる。
- (5) 試験実施責任者は、不正行為が第2条第2項に定める当該試験科目のみを無効とする処分にあたりと判断したときは、以降の受験を認めるものとする。

第4条 不正行為を行った学生に対する処分は次の手続きを経て決定される。

- (1) 試験実施責任者は、試験監督者からの報告を受け、不正行為報告書を作成し、学部長に報告する。不正行為の報告があったときは、学部長は教授会を招集する。
- (2) 教授会は、学則第41条の定めにもとづく処分について審議し結論を得る。学部長は教授会の結論を学生部長および学長に報告し、処分が確定する。

第5条 学部長は、不正行為に対する処分が確定したときは、それを当該学生および保証人に通知する。

第6条 この規程は、国際学部が行う定期試験、追試験、再試験に適用する。

第7条 この規程の改廃は、学生委員会及び教務委員会の議を経て、教授会が決定する。

附 則

この規程は平成28年4月1日から施行する。

11. 成績評価とGPA制度

成績評価

(1) 履修科目の可否の判定

100点満点の実点で、60点以上が「合格」となり、59点以下は「不合格」となります。

(2) 成績の評価

成績の評価は、追試験を含めて次のように表示されます。

- ① 秀 (100～90点)、優 (89～80点)、良 (79～70点)、可 (69～60点)、不可 (59点以下)
- ② 合格・不合格 (60点以上か59点以下か) のみを判定する科目の場合は、合格を「認定」と表示します。
- ③ 再試験での成績評価は、60点が最高点です。
- ④ 「不可」や「不受験」も以下に述べるGPAの算出に反映されるので注意してください。

GPA (Grade Point Average) 制度

(1) 制度について

近畿大学では、成績評価の指標としてGPA (グレード・ポイント・アベレージ) 制度を施行しています。GPA とは、100点満点の実点および「秀・優・良・可・不可」の成績評価に対応させて、5段階のGP (グレード・ポイント) に置き換え、その科目の単位数と関連させてGPの平均値を算出した、最高点4点から最低点0点までの数値です。

GPA 制度の意義は、GPA やGP によって自分の学修の全体的な達成度合いを簡便に測ることができる点にあります。GPA あるいはGP に基づいて、自分の弱点を把握し、履修計画や学修状況を反省し、より実効性のある勉学に取り組むことができます。また、GPA は世界各地の大学で広く採用されている評価方法であり、日本の大学のグローバル化に対応する制度です。すなわち、海外留学、海外の大学院進学、外資系企業への就職などの際に幅広く通用する国際標準の成績評価制度であり、拡大するグローバル社会において必要かつ有効な制度です。

(2) GPA 値の計算方法

- ① GPA は以下の数値と計算式で算出されます。なお、GPA は小数第2位を四捨五入して、表記は小数第1位までとします。

実点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	不受験
成績評価	秀	優	良	可	不可	(不受験)
GP	4	3	2	1	0	0

$$\text{GPA} = \frac{\{(\text{履修登録科目の単位数}) \times (\text{履修登録科目のGP})\}の総和}{\text{総履修登録科目の単位数}}$$

- ② 実点は当該科目の点数を表します。
 - ③ 不可になった科目または不受験の科目を再履修して単位を修得した場合、通算のGPAには過去の0点と再履修のGPの両方が算入されます。
 - ④ 進級要件、卒業要件にはGPAを適用しません。
- (3) GPAからの除外科目
 キャップ制除外科目および履修を取り下げた科目は、GPAの計算式からも除外されます。

履修の取り下げ

履修登録期間終了後、学部が定めた期間に、学生本人から申し出があった科目に関してのみ履修の取り下げを認めます。ただし、取り下げ期間中の履修科目の変更や追加は認められません。詳しい手続きの方法は、別途、掲示板や学生ポータルサイト（UNIPA）でお知らせします。

※ 例外的に履修取り下げの対象にならない科目があります。特に、第1学年前期の言語科目の各科目、「基礎ゼミ」、「留学セミナー」は履修を取り下げることができません。

成績通知（成績通知書と成績証明書）について

- (1) 成績通知書では、履修登録を行った全ての科目について実点が通知され、成績評価の要件に満たない場合（試験欠席やレポート未提出等）は、「不受験」と表示されます。成績通知書は毎年度前期末と後期末に保護者宛に郵送されます。
- (2) 成績証明書は大学が発行する正式な証明書で、単位修得（合格）科目とその成績評価が記載されています。就職活動や海外の大学への留学等、正式な成績証明書が必要な場合に使います。また、証明書自動発行機で申請を行うと、和文および英文成績証明書を発行することができます。

成績照会

試験を受験したにもかかわらず不受験扱いになっている等、成績評価について疑問があるときは、国際学部事務部を通じ、担当教員に対して文書で説明を求めることができます。手続きの詳細については、郵送する成績通知書に同封します。

12. オフィス・アワーとアセンブリー・アワー

(1) オフィス・アワー

学生からの授業科目等に関する質問や学生生活上の相談等に応じるための時間枠として、教員があらかじめ指定した時間帯のことで、その時間帯であれば、学生は基本的に予約なしで研究室を訪問し、質問や相談を行うことができます。なお、教員によってオフィス・アワーの曜日や時間帯は異なります。

(2) アセンブリー・アワー

金曜の第3時限は、留学に関する説明会、学内外の講師を招いての講演会、就職ガイダンス等を開催する時間帯です。国際学部の全学生がアセンブリー・アワーの催しに出席できるように、アセンブリー・アワーには、国際学部の科目を開講していません。また、アセンブリー・アワーと同時限に開講している国際学部以外の科目（例えば、教職課程科目等）を履修することはできません。

13. 授業評価アンケート

教育の質の向上のため、学生による授業評価を行い、その結果をもとに教員が授業内容の改善に役立てることを目的に授業アンケートを実施しています。実施時期は毎学期の授業時間の一部を使用して行います。

14. 掲示と学生ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT）

近畿大学では、大学や学部からの正式な連絡やお知らせは、「掲示板」と「学生ポータルサイト（UNIVERSAL PASSPORT（通称、UNIPA）」を通して行われます。

掲示板や学生ポータルサイト（UNIPA）には、休講・補講、教室変更、定期試験、成績、留学等に関連する情報、

大学・学部主催のイベントの情報、就職活動に関連する情報等、非常に重要な情報が載っています。

未確認や見落としによる責任は全て学生の皆さんが負うことになります。学部の掲示板または学生ポータルサイト（UNIPA）で情報を頻繁に確認してください。

III 留学

国際学部の留学

1. 留学の概要

国際学部では第1学年後期から全ての学生が米国、中国、台湾、または韓国に留学します。第1学年後期から第2学年前期という時期に留学することで、早期に高度な語学習得および異文化体験を可能にし、それ以降の学習およびキャリア形成の礎とします。

また、留学から帰国した後、「帰国後セミナー」によって留学体験を整理し、それをふまえて、今後の学修の方向性を定めます。

2. 留学の準備と留学先の決定

成果ある留学を実現するために、第1学年前期に「基礎ゼミ」、「留学セミナー」、「グローバル化入門」、「異文化理解」という科目を履修し、留学制度の理解、心構え、留学先で役立つ知識・スキルを身につけます。また、日本の歴史を再確認したり留学先の大学や地域の情報収集を行ったりすることも重要です。

留学先は留学可能な協定校の中から留学先を希望することができますが、特定の留学先に希望者が偏ることがないように、第1希望だけでなく複数の留学希望先候補を提出の上、成績および語学レベルによって決定します。

3. 留学中の心得

留学プログラムの趣旨を十分理解し、留学前に各自留学期間中に達成したい目標をしっかりと立て、その目標に向かった学習をしてください。また、渡航期間中は滞在国の法令、留学先大学の定める規則、指導教員、アドバイザー等の指示に従い、かつ日本の法令や近畿大学の学則、近畿大学国際学部の指示に反することのないよう、近畿大学生としての自覚と責任において行動してください。留学中は、勉学に励むことに加え、日々の健康管理、安全面での注意も怠らないようにしてください。

4. 禁止事項・注意事項

- (1) 渡航期間中、アルバイトや車両（自動車、自動二輪車、軽飛行機、小型船舶等を含む）の運転を行うことを禁止します。
- (2) 渡航期間中、自らの故意または過失により生じた損害や事故については、各自がその責任を負うことになります。
- (3) 留学期間中は近畿大学および留学先大学があらかじめ指定・認定した科目を履修し、近畿大学が指定または承認した滞在先（寮またはホームステイ先）に滞在することとします。

5. 単位の互換と成績

第1学年後期および第2学年前期の国際学部からの留学期間中に、現地の大学または大学付設の語学学校にて履修・単位修得した科目については、カリキュラムに定めるとおり、所定の手続きを経た上で、1セメスターにつき原則として16単位、1年間で計32単位を超えない範囲で、単位認定します。ただし、留学先での科目履修の状況によっては、これを超えて単位を認定することがあります。

6. 国際学部留学に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、国際学部がカリキュラムとして行う海外留学に必要な事項を定める。

(協定先大学における留学の部局)

第2条 国際学部グローバル専攻学生が留学する別表1に示す米国の大学の部局は、各大学付設ELSセンターと留学先大学とする。

- 2 国際学部東アジア専攻学生が留学する大学の部局は慶熙大学校国際教育院、国民大学国際教育院、淡江大学成人教育部華語中心又は遼寧大学国際教育学院とする。

(留学の資格)

第3条 留学できる者は、国際学部1年次に在学し、かつ留学許可に必要な基準を満たした者とする。

2 1年次前期開講の「基礎ゼミ」又は「留学セミナー」の単位を修得できなかった者は、留学資格を取り消す。

(出願の手続き)

第4条 留学を志望する者は、1年次前期4月末日までに、必要書類を添付した所定の留学願を学部長に提出しなければならない。

2 前項の留学願には、留学先、受け入れ部局が発行する入学内諾書(許可書)またはこれに類する書類、滞在予定住所、留学期間、同意書等、あらかじめ国際学部が指定する書類を添えなければならない。

(留学の許可)

第5条 留学(派遣留学または認定留学)の許可は、教授会の議を経て、学部長がこれを決定する。

(留学先と留学期間)

第6条 国際学部国際学科グローバル専攻の学生は別表に示す米国の大学に留学し、その期間は、留学先大学の1学年(本学における第1学年9月から第2学年5月までの約9か月)とする。

2 国際学部国際学科東アジア専攻の学生は別に定める中国、台湾又は韓国の大学に留学し、その期間は、留学先大学の1学年(本学における第1学年9月から第2学年8月までの約12か月)とする。

(留学中および帰国後の課題)

第7条 国際学部留学に参加する者には、次の課題が課せられる。

(1) 留学中、定期的にレポート(学習面・生活面での報告)を学生ポータルサイト等(UNIPA)を通して提出する。

(2) 帰国後、「帰国後セミナー」を履修・修得する。

(3) 留学報告会など、情報提供を行う。

(留学修了の手續)

第8条 留学を修了し帰国した学生は、帰国の日から1ヶ月以内に、次の各号に掲げる関係書類を提出しなければならない。

(1) 留学修了届

(2) 単位取得証明書(またはこれに準ずる書類)

(3) その他学部長があらかじめ提出を指定した書類

(留學生活における確認事項)

第9条 留学は、次の事項を条件とする。

(1) 自らの故意又は過失により生じた損害や事故については、各自がその責任を負う。

(2) 滞在国外への旅行は、これを認めない。

(3) 一時帰国は、国際学部が承認した場合を除き、これを認めない。

(4) 本学及び留学先大学指定の海外旅行保険・留学生医療保険に加入する。

(5) 本学及び留学先大学があらかじめ指定・認定した科目を履修する。

(6) 本学が指定又は承認した滞在先(寮またはホームステイ先)に滞在する。

(修得単位の取扱)

第10条 留学期間中に留学先大学の正課の科目を履修して修得した単位のうち、国際学部の教授会が適当であると認めた履修科目を、国際学部において修得したものとみなし、卒業に必要な単位として読み替えることができる。

(留学許可の取消)

第11条 留学中の学生が次の各号に該当すると認められた場合、留学先大学の部局と協議し、国際学部教授会で審議の上、留学の許可、及び留学中に取得した単位を取り消すことができる。

(1) 本大学の他の学生・保護者若しくは留学先教育機関の関係者の名誉若しくは信用を毀損し、又は毀損するおそれのある行為をした場合

(2) 留学中に他人に物理的な危害若しくは精神的な脅威を与え、又は他人の安全で平穏な生活を妨害した場合

- (3) 国際学部の留学プログラム運営若しくは留学先教育機関での留学プログラム運営を妨害し、又は妨害するおそれのある行為をした場合
- (4) 法令等若しくは公序良俗に違反し、又はそれらに違反するおそれのある行為をした場合
- (5) 就労（アルバイト等を含む。）をした場合
- (6) 留学先で車両（自動車、自動二輪車、軽飛行機、小型船舶等を含む。）を運転した場合、又は国際学部の他の留学生在が留学先で運転する車両に同乗した場合
- (7) 学生査証が認められなくなった場合
- (8) 疾病その他やむを得ない理由により留学を続けることができない場合
- (9) 本学の定める規程・ルール又は本学教職員の指示・指導に従わない場合
- (10) 国際学部の留学プログラム又は教育課程の方針・制度と学生・保護者の要望が著しく乖離し、留学継続が困難と認められた場合
- (11) 留学プログラムの準備から現地滞在期間にわたり、本学又は留学先教育機関に提出した情報に虚偽があった場合
- (12) そのほか、その行状により、国際学部が留学プログラム参加を不適切と判断した場合
- (13) 国際学部の他の留学生在が本規程に違反しているのを知りながら、それに加担した場合

2 前項により留学の許可を取り消された者は、ただちに帰国し、本学部の指示に従わなければならない。

（修業年限）

第12条 国際学部がカリキュラムとして行う留学は、カリキュラム以外での留学に参加することを妨げない。なお、カリキュラム以外での留学に参加する場合の留学期間については、カリキュラムでの留学の期間と通算して2年間を超えない範囲で、学則第2条に規定する修業年限に算入することができる。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、平成29年4月1日から施行する。

全学的な留学・語学研修

1. 交換留学・派遣留学・認定留学

本学部の学生は、国際交流室を主管とする近畿大学の交換・派遣留学に参加し、再度留学することが可能です。その場合、国際学部の1年間の必修留学と合わせ、計2年間を上限とする留学期間を学則第3条に規定する修業年限に算入することができるものとします。国際交流室主管の交換・派遣留学に参加し、現地の大学で取得した単位は所定の手続きを経て、専門科目として単位認定します。

2. 語学研修

本学部の学生が国際交流室を主管とする短期語学研修に参加することは可能ですが、その際、現地の大学で認定された修了証に基づく専修言語の研修による単位認定は国際学部でなされないので、注意してください。専修言語以外の研修は、「体験プログラムA」で単位認定されることがあります。詳細の条件はシラバスで確認してください。ただし、グローバル専攻の学生が英語以外の外国語を学習するために語学研修に参加することや、東アジア専攻の学生が英語圏の語学研修に参加することは大いに奨励します。

IV 教職課程と日本語教員養成課程

1. 教職課程

教職課程は教職教育部で担当し、本学各学部卒業後に、高等学校・中学校の教員を希望する学生に必要な教員免許資格を取得させることを目的としています。国際学部で取得できる教員免許資格は以下のとおりです。

履修希望者は「教職課程履修ガイダンス」に出席し、その指示に従って手続きをしてください。

取得免許教科の種類

専攻名	高等学校教諭一種免許状	中学校教諭一種免許状
グローバル専攻	英語	英語

注意点

- (1) 詳細は「教職課程履修ガイダンス」で配布する「教職課程履修要項」を参照してください。
- (2) 教職教育部開講科目は、進級・卒業所要単位には含まれません。
- (3) 時間割の編成によっては教職課程を履修することが難しい場合があります。

2. 日本語教員養成課程

日本の国際化・グローバル化により、日本の国内外では日本語の習得を必要とする日本語学習者が増加し、これに伴い日本語教員の需要が増えています。現在、日本語教員に関する公的な免許制度はありませんが、国際学部では日本語教育関連の科目を開設して、日本語教員の養成課程を設けます。下記に定める科目を履修して、14単位を修得した学生には日本語教員養成課程の修了証明書を交付します。

科 目	配当学年	単位数
日本語教授法1	3~4	2
日本語教授法2	3~4	2
日本語教育基礎実習	3~4	2
日本語学	3~4	2
異文化理解	1~4	2
日本語の技法（共通教養科目）	1~4	2
日本近現代史（共通教養科目）	1~4	2
合 計		14単位

V 各種制度・案内

1. 学長賞、学部長賞等

学則の定めるところにより、在学中の学業成績が優秀であり、他の学生の模範となる学生に対し、学長賞、学部長賞が卒業式で授与されます。また、課外活動・クラブ活動等で顕著な成績や功績を挙げた学生は、特別に表彰されます。

2. 奨学金制度

以下の(1)や(2)の制度があります。いずれの奨学金についても、募集や資格条件等の詳細については、学生部発行の学生生活ガイドブックや近畿大学ホームページ等で確認してください。

- (1) 近畿大学奨学金
- (2) 日本学生支援機構奨学金

また、この他にも地方公共団体および民間育英団体等の奨学金制度もありますので、学生部奨学課の奨学金専用掲示板で確認してください。

3. 成績優秀特待生制度

第2・3学年において、次の条件を満たす学生は、次年度(次学年)の授業料の半額および教育充実費の半額を免除します。また、免除対象学生の採用人数は、各年次において次のとおりとします。

(1) 免除資格

成績上位であること：

3年次進級時 72 単位以上を修得し、前年度の平均点が85 点以上

4年次進級時 108 単位以上を修得し、前年度の平均点が85 点以上

平均点とは単位修得した科目の平均点です。点数で評価しない「認定」科目は算入されません。

(2) 免除対象者数(第3学年次、第4学年次のそれぞれ)

グローバル専攻 8名以内

東アジア専攻 2名以内

なお、免除該当学生については、年度末ごろに保護者宛に通知します。

4. 転学部

国際学部から他学部への転学部の制度があります。転学部を希望する者は、年度末に実施される転学部試験に出願し合格すれば転学部が許可されます。詳しくは希望する学部の事務部に問い合わせ、その指示にしたがってください。

5. 休学・復学

(1) 病気、その他やむを得ない事情で休学する場合は、学則の定めるところにより、担当教員と面談し国際学部事務部に願い出なければなりません。

(2) 休学者が復学しようとするときは、学則の定めるところにより、国際学部事務部に願い出なければなりません。

6. 除籍・復籍・処分

- (1) 学費を期限までに納入しない場合は、学則の定めるところにより除籍され、学生の身分を失うことになります。学費の納入忘れに注意してください。
- (2) 学費未納の理由で除籍された者が学籍の復帰を希望するときは、所定の期間内に手続きをした場合、審査のうえ復籍が許可されます。ただし、所定の期日を過ぎても学費の納入がない場合は復籍が認められません。詳細は国際学部事務部に問い合わせてください。
- (3) 問題行為など学生の本分にもとる行為のあった学生は、学則の定めるところにより処分されます。

7. 退学・再入学

- (1) 病気その他やむを得ない事情で退学する場合は、担当教員と面談し保証人連署で学生証を添付して国際学部事務部に届け出なければなりません。詳細は国際学部事務部に問い合わせてください。
- (2) 退学した者が再入学を希望する場合は、所定の期日までに出席し、その許可を受けなければなりません。

8. 定期健康診断

毎年4月に実施される定期健康診断は必ず受診しなければなりません。健康診断により早期に疾病の発見・治療が可能となります。また、就職活動や留学手続きに必要な健康診断証明書の発行にも受診が条件です。なお、病気など止むを得ない理由で受診できなかった場合は、速やかに保健管理センターに届け出て指示を受けてください。

VI 授業科目と履修方法

1. カリキュラム表

		1年次配当科目				2年次配当科目					
全学共通科目	共通教養科目	基礎ゼミ ICTリタラシー 1 哲学と人間・社会 日本語の技法 人権と社会 1* 現代社会と倫理 生涯スポーツ 1 思考の技術 暮らしのなかの憲法* 日本近現代史 世界近現代史 地域と環境の地理学 教養特殊講義A~C (平成30年度から各開講)	2 2 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2	必 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選					健康とスポーツの科学 キャリアデザイン1 人権と社会 2 生涯スポーツ 2 国際法入門 国際政治学 生命の科学 ICTリタラシー 2 現代社会と法 現代社会と政治 環境科学 現代経済の課題 心理と行動 現代の社会論 芸術鑑賞入門 住みよい社会と福祉	2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選 選
	外国語科目				TOEIC	2	選	フランス語入門 スペイン語入門 ドイツ語入門 韓国語入門 中国語入門 タイ語入門 ベトナム語入門	2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選	
専門科目	学部共通開講科目 (商専攻)	留学セミナー グローバル化入門 異文化理解	2 2 2	必 必 必				IELTS ビジネスマネジメントの基礎 観光英語 観光概論 旅行ビジネス英語 英日翻訳演習 日中翻訳1 日韓連・翻訳1 体験プログラム A・B インターンシップ A・B	1 2 2 2 1 1 1 各2 各2	選 選 選 選 選 選 選 選 選	
	セミナー科目 (商専攻)				帰国後セミナー	1	必				
	言語科目	文法とスピーキング ボキャブラリー リーディング・ライティング コンピュータ応用学習	3 2 3 1	必 必 必 必				キャリア英語1 ディスカッション リーディング・ライティングスキル	1 1 1	必 必 必	
	留学科目				留学前半 ランゲージスキル 1・2 ストラクチャー 1・2 リーディング 1・2 ライティング 1・2	各2 各2 各2 各2	選 選 選 選	留学後半(ELSコース) ランゲージスキル 3・4 ストラクチャー 3・4 リーディング 3・4 ライティング 3・4 留学後半(ELS+学部コース) 人文学分野研究 A-D* 社会学分野研究 A-D* 国際教養研究 A-D* 自然科学分野研究 A・B*	各2 各2 各2 各2 各4 各4 各4 各4	選 選 選 選 選 選 選 選	
グローバル専攻	グローバル専攻 専門基礎科目・専門発展科目							専門基礎科目(2-4年次配当) 言語入門 コミュニケーション学 多様性と世界を理解する視点 グローバル・イシュー入門 アジア学入門 地域研究入門 【上記より3科目(6単位) 以上取得】	2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選	
東アジア専攻・中国語コース	言語科目	中国語入門(文法)1・2・3 中国語入門(会話)1・2 中国語表現1・2	各1 各1 各1	必 必 必				英会話1 中国語会話上級 中国語文法上級 中国語表現技法1 ビジネス中国語1	1 1 1 1 1	必 必 必 選 選	
	留学科目				中国語文法(初級)1・2・3 中国語会話(初級)1・2・3 中国語作文(初級) English Grammar A English Conversation A	各2 各2 2 1 1	選 選 選 選 選	中国語文法(中級)1・2・3 中国語会話(中級)1・2・3 中国語作文(中級) English Grammar B English Conversation B	各2 各2 2 1 1	選 選 選 選 選	
	専門発展科目							専門発展科目(2-4年次配当) 中国学研究法 中国近現代史1 中国映像文化論 日中比較文学 中国語学概論 中国現代文学	2 2 2 2 2 2	必 選 選 選 選 選	
東アジア専攻・韓国語コース	言語科目	韓国語入門(文法)1・2・3 韓国語入門(会話)1・2 韓国語表現1・2	各1 各1 各1	必 必 必				英会話1 韓国語会話上級 韓国語文法上級 韓国語表現技法1 ビジネス韓国語1	1 1 1 1 1	必 必 必 選 選	
	留学科目				韓国語文法(初級)1・2・3 韓国語会話(初級)1・2・3 韓国語作文(初級) English Grammar A English Conversation A	各2 各2 2 1 1	選 選 選 選 選	韓国語文法(中級)1・2・3 韓国語会話(中級)1・2・3 韓国語作文(中級) English Grammar B English Conversation B	各2 各2 2 1 1	選 選 選 選 選	
	専門発展科目							専門発展科目(2-4年次配当) 現代韓国の理解 韓国近現代史1 韓国学概論1 日韓連・翻訳実践1 日韓比較研究1 異言語と文化1	2 2 2 2 2 2	必 選 選 選 選 選	

*前/後期開講科目

		3年次配当科目				4年次配当科目				卒業要件				
共通教養科目	基礎数学1 キャリアデザイン2	2 2	選 選	基礎数学2	2 2	選 選					10以上 30以上			
外国語科目	フランス語基礎 スペイン語基礎 ドイツ語基礎 韓国語基礎 中国語基礎 タイ語基礎 ベトナム語基礎	2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選	フランス語中級 スペイン語中級 ドイツ語中級 韓国語中級 中国語中級 タイ語中級 ベトナム語中級	2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選	フランス語上級 スペイン語上級 ドイツ語上級 韓国語上級 中国語上級 タイ語上級 ベトナム語上級	2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選					
学部共通開講科目 (高専攻)	ビジネスライティング 国際経済と金融 国際ビジネスと貿易 英米文学研究 英語逐次通訳演習 日英翻訳演習 日中翻訳2 日韓通訳2 日本語教授法1 日本語教育基礎実習	1 2 2 2 1 1 1 1 2 2	選 選 選 選 選 選 選 選 選 選	グローバル時代の日本企業 英米文学史 英語同時通訳演習	2 2 1	選 選 選				6以上(必修科目を含む)				
セミナー科目 (高専攻)	セミナー1	1	必	セミナー2	1	必	セミナー3	1	必	卒業プロジェクト	4	必	8	
言語科目	キャリア英語2 ディベート アカデミック英語	1 1 1	必 必 必	アカデミック研究英語 プレゼンテーションスキル上級 交渉のスキル	1 1 1	必 選 選							16(必修科目を含む)	
留学科目													2~32	
専門発展科目(3年次配当)														
専門基礎科目・専門発展科目	前期開講科目				後期開講科目									
	比較文化論* グローバル化と日本* グローバル・イシューの諸課題 国際人権問題 ポランティア論 模範国連 環境と社会 グローバル化と文化接触 北アメリカの文化と歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2	必 必 選 選 選 選 選 選 選	欧州の文化と歴史 オセアニアの文化と歴史 中近東とアフリカの文化と歴史 中南米の現代社会事情	2 2 2 2	選 選 選 選	比較文化論* グローバル化と日本* 国際関係論 国際機関とその役割 NPO・NGO論 国際協力・開発論 グローバル化した世界のメディア論 国際紛争史 平和学	2 2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選 選	北アメリカの現代社会事情 欧州の現代社会事情 オセアニアの現代社会事情 中南米の現代社会事情 中南米の文化と歴史 ジェンダーとグローバル化した世界 現代日本の文化的多様性 グローバル化した世界の民族問題 世界の宗教	2 2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選 選	26以上	
	言語としての英語 英語圏の文学 通訳概論 関西文化の情報発信 メディア・リテラシー 言語と権力 ネット社会とコミュニケーション コミュニケーションの事例研究	2 2 2 2 2 2 2	必 選 選 選 選 選 選	日本文学を英語で読む 言語と社会 言語の構造と意味	2 2 2	選 選 選	異文化コミュニケーション論 実務翻訳概論 ESL言語学 対人コミュニケーション論 言語使用の原理 会話と談話の原理 報道のコミュニケーション 多文化共生社会と言語 早期英語教育論 英語の歴史	2 2 2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選 選 選	英語の音声と発音 企業社会とコミュニケーション 言語と心 日本語の構造 日本社会のコミュニケーション 非言語コミュニケーション論 応用言語学 言語教育理論 第二言語習得論	2 2 2 2 2 2 2 2	選 選 選 選 選 選 選 選	専門基礎科目8以上と専門発展科目は所属スカラーズより必修を含み20以上	
	アジアの歴史 アジアの地理 韓国の政治と経済 東南アジアの政治と経済 日本文化と歴史	2 2 2 2 2	必 必 選 選 選	アジアの政治・外交の歴史と日本 アジアの宗教と思想	2 2	選 選	アジアの文化 アジアの文化遺産 アジア社会論 東アジア文学 ASEANの役割	2 2 2 2 2	選 選 選 選 選	中国の政治と経済 東アジアの中の日本 アジアの民族学 現代の南アジア	2 2 2 2	選 選 選 選		
言語科目	英会話2 中国語プレゼンテーション1 中国語演習(読解作文)1 中国語表現技法2 ビジネス中国語2	1 1 1 1 1	必 必 必 選 選	英会話3 中国語プレゼンテーション2 中国語演習(読解作文)2 HSK・中検	1 1 1 1	必 必 選 選	筆測試験	1	選				19以上(必修科目を含む)	
留学科目													2~32	セミナー科目8単位と学部共通開講科目と合わせて100以上
専門発展科目(3年次配当)														
専門発展科目	中国近現代史2 中国現代文化 日中異文化コミュニケーション 中国語方言学 中国当代文学	2 2 2 2 2	選 選 選 選 選	グローバル専攻アジア・スタディーズの科目									18以上(必修科目を含む)	
言語科目	英会話2 韓国語プレゼンテーション1 韓国語演習1 韓国語表現技法2 ビジネス韓国語2	1 1 1 1 1	必 必 必 選 選	英会話3 韓国語プレゼンテーション2 韓国語演習2 ハングル能力検定	1 1 1 1	必 必 選 選	TOPIK	1	選				19以上(必修科目を含む)	
留学科目													2~32	セミナー科目8単位と学部共通開講科目と合わせて100以上
専門発展科目(3年次配当)														
専門発展科目	韓国近現代史2 韓国学概論2 日韓通訳・翻訳実践2 日韓比較研究2 異言語と文化2	2 2 2 2 2	選 選 選 選 選	グローバル専攻アジア・スタディーズの科目									18単位(必修科目を含む)	

*前・後期開講科目

2. 全学共通科目（共通教養科目・外国語科目）：卒業・履修要件と授業科目表

卒業・履修要件：共通教養科目および外国語科目

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	* スポーツ・表現活動科目群と合わせて、4単位以上
		地域性・国際性科目群	2単位以上
		課題設定・問題解決科目群「基礎ゼミ」	2単位
		課題設定・問題解決科目群	2単位以上
	スポーツ・表現活動科目群	* 人間性・社会性科目群と合わせて、4単位以上	
外国語科目		30単位以上	

授業科目表：共通教養科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当学年		
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群	暮らしのなかの憲法	2	1～4
			哲学と人間・社会	2	1～4
			現代社会と倫理	2	1～4
			人権と社会1	2	1～4
			人権と社会2	2	2～4
			心理と行動	2	2～4
			現代の社会論	2	2～4
			芸術鑑賞入門	2	2～4
			住みよい社会と福祉	2	2～4
			現代社会と法	2	2～4
			現代社会と政治	2	2～4
			現代経済の課題	2	2～4
			教養特殊講義A	2	1～4
地域性・国際性科目群	日本近現代史	2	1～4		
	世界近現代史	2	1～4		
	地域と環境の地理学	2	1～4		
	国際法入門	2	2～4		
	国際政治学	2	2～4		
	教養特殊講義B	2	1～4		
	課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ（必修科目）	2	1～4	
ICTリタラシー1		2	1～4		
日本語の技法		2	1～4		
キャリアデザイン1		2	2～3		
キャリアデザイン2		2	3～4		
ICTリタラシー2		2	2～4		
生命の科学		2	2～4		
環境科学		2	2～4		
思考の技術		2	1～4		
基礎数学1		2	3～4		
基礎数学2		2	3～4		
教養特殊講義C	2	1～4			
スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ1	1	1～4		
	生涯スポーツ2	1	2～4		
	健康とスポーツの科学	2	2～4		

授業科目表：外国語科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当学年	
全学共通科目	外国語科目	TOEIC	2	2～4
		フランス語入門	2	2～4
		スペイン語入門	2	2～4
		ドイツ語入門	2	2～4
		韓国語入門	2	2～4
		中国語入門	2	2～4
		タイ語入門	2	2～4
		ベトナム語入門	2	2～4
		フランス語基礎	2	3～4
		スペイン語基礎	2	3～4
		ドイツ語基礎	2	3～4
		韓国語基礎	2	3～4
		中国語基礎	2	3～4
		タイ語基礎	2	3～4
		ベトナム語基礎	2	3～4
		フランス語中級	2	3～4
		スペイン語中級	2	3～4
		ドイツ語中級	2	3～4
		韓国語中級	2	3～4
		中国語中級	2	3～4
		タイ語中級	2	3～4
		ベトナム語中級	2	3～4
		フランス語上級	2	4
		スペイン語上級	2	4
		ドイツ語上級	2	4
		韓国語上級	2	4
		中国語上級	2	4
		タイ語上級	2	4
ベトナム語上級	2	4		

外国語科目履修上の注意

- (1) 外国語科目を履修せずに共通教養科目だけで修得すべき単位数を満たしてもかまいませんが、外国語科目（フランス語、スペイン語、ドイツ語、韓国語、中国語、タイ語、ベトナム語）を履修する場合、いずれかの一言語を選択し、段階別に4科目（入門、基礎、中級、上級）を継続して履修することが望ましいです。
- (2) 東アジア専攻の学生は、専修言語を履修することはできません。
- (3) 履修方法については、第2学年後期開始時に別途案内します。

3. 専門科目（学部共通開講科目）：卒業・履修要件と授業科目表

卒業・履修要件：学部共通開講科目

科目区分			修得すべき単位数	
専門科目	学部共通開講科目	「留学セミナー」	2単位	左記所要単位数を含み、 専門科目全体から 100単位以上
		「グローバル化入門」	2単位	
		「異文化理解」	2単位	

授業科目表：学部共通開講科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当学年	
専門科目	学部共通開講科目	(留学前)		
		留学セミナー（必修科目）	2	1～4
		グローバル化入門（必修科目）	2	1～4
		異文化理解（必修科目）	2	1～4
		(留学後)		
		IELTS	1	2～4
		ビジネスマネジメントの基礎	2	2～4
		観光英語	2	2～4
		観光概論	2	2～4
		旅行ビジネス英語	2	2～4
		英日翻訳演習	1	2～4
		日中翻訳1	1	2～4
		日韓通・翻訳1	1	2～4
		体験プログラム A	2	2～4
		体験プログラム B	2	2～4
		インターンシップ A	2	2～4
		インターンシップ B	2	2～4
		ビジネスライティング	1	3～4
		国際経済と金融	2	3～4
		国際ビジネスと貿易	2	3～4
		英米文学研究	2	3～4
		英語逐次通訳演習	1	3～4
		日英翻訳演習	1	3～4
		日中翻訳2	1	3～4
		日韓通・翻訳2	1	3～4
		日本語教授法 1	2	3～4
		日本語教育基礎実習	2	3～4
		グローバル時代の日本企業	2	3～4
		英米文学史	2	3～4
		英語同時通訳演習	1	3～4
		日本語教授法 2	2	3～4
		日本語学	2	3～4

履修上の注意

学部共通開講科目は、グローバル専攻と東アジア専攻の学生全員を対象とした科目であり、留学前に履修する留学準備のための科目と、留学後に履修する科目に分かれます。前者は、第1学年前期に配当される留学に必須の内容で、全て必修科目です。後者は、留学後の第2学年後期以降に配当される選択科目であり、ビジネス、通訳・翻訳、中国語、韓国語、日本語教育、英文学、体験型科目のように多岐にわたるので、自身の興味や関心、将来の進路等に十分に留意して選択をすることが重要です。

4. 専門科目（学部共通開講科目以外）： 卒業・履修要件、進級要件と授業科目表

(1) グローバル専攻

卒業・履修要件

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	30単位以上（必修科目を含む）※詳しくは、「全学共通科目：（共通教養科目・外国語科目）卒業・履修要件と授業科目表」のページを確認のこと。	
	外国語科目		
専門科目	学部共通開講科目	6単位以上 （必修科目を含む）	100単位以上
	セミナー科目	8単位	
	言語科目	16単位以上 （必修科目を含む）	
	留学科目	2～32単位	
	専門基礎科目	6単位以上	
	専門発展科目（グローバル・スタディーズ） グローバル・スタディーズを選択した場合、「比較文化論」と「グローバル化と日本」が必修科目となる。	選択したスタディーズから、左記の必修科目を含み、20単位以上	
	専門発展科目（コミュニケーション・スタディーズ） コミュニケーション・スタディーズを選択した場合、「異文化コミュニケーション論」と「言語としての英語」が必修科目となる。		
専門発展科目（アジアン・スタディーズ） アジアン・スタディーズを選択した場合、「アジアの文化」と「アジアの歴史」と「アジアの地理」が必修科目となる。			
合計（卒業所要単位数）		130単位以上	

進級要件

1学年→2学年	2学年→3学年	3学年→4学年
20単位以上	56単位以上	92単位以上

授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門基礎科目・専門科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	セミナー科目	帰国後セミナー（必修科目）	1	2～4
		セミナー1（必修科目）	1	3～4
		セミナー2（必修科目）	1	3～4
		セミナー3（必修科目）	1	4
		卒業プロジェクト（必修科目）	4	4
	言語科目	文法とスピーキング（必修科目）	3	1～4
		ボキャブラリー（必修科目）	2	1～4
		リーディング・ライティング（必修科目）	3	1～4
		コンピュータ応用学習（必修科目）	1	1～4
		キャリア英語1（必修科目）	1	2～4
		ディスカッション（必修科目）	1	2～4

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
言語科目	リーディング・ライティングスキル（必修科目）	1	2～4	
	キャリア英語 2（必修科目）	1	3～4	
	ディベート（必修科目）	1	3～4	
	アカデミック英語（必修科目）	1	3～4	
	アカデミック研究英語（必修科目）	1	3～4	
	プレゼンテーションスキル上級	1	3～4	
	交渉のスキル	1	3～4	
専門科目	留学科目	ランゲージスキル 1	2	1～4
		ストラクチャー 1	2	1～4
		リーディング 1	2	1～4
		ライティング 1	2	1～4
		ランゲージスキル 2	2	1～4
		ストラクチャー 2	2	1～4
		リーディング 2	2	1～4
		ライティング 2	2	1～4
		ランゲージスキル 3	2	2～4
		ストラクチャー 3	2	2～4
		リーディング 3	2	2～4
		ライティング 3	2	2～4
		ランゲージスキル 4	2	2～4
		ストラクチャー 4	2	2～4
		リーディング 4	2	2～4
		ライティング 4	2	2～4
		人文学分野研究 A	4	1～4
		人文学分野研究 B	4	1～4
		人文学分野研究 C	4	1～4
		人文学分野研究 D	4	1～4
		社会学分野研究 A	4	1～4
		社会学分野研究 B	4	1～4
		社会学分野研究 C	4	1～4
		社会学分野研究 D	4	1～4
		国際教養研究 A	4	1～4
		国際教養研究 B	4	1～4
		国際教養研究 C	4	1～4
		国際教養研究 D	4	1～4
	自然科学分野研究 A	4	1～4	
	自然科学分野研究 B	4	1～4	
専門基礎科目	言語入門	2	2～4	
	コミュニケーション学	2	2～4	
	多様性と世界を理解する視点	2	2～4	
	グローバル・イシュー入門	2	2～4	
	アジア学入門	2	2～4	
	地域研究入門	2	2～4	

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次
専門科目	比較文化論	2	3～4
	グローバル化と日本 (これら2科目はグローバル・スタディーズを選択した場合は必修科目として履修して下さい。他のスタディーズの学生は選択科目として履修できます。)	2	3～4
	国際関係論	2	3～4
	グローバル・イシューの諸課題	2	3～4
	環境と社会	2	3～4
	ジェンダーとグローバル化した世界	2	3～4
	国際協力・開発論	2	3～4
	現代日本の文化的多様性	2	3～4
	グローバル化と文化接触	2	3～4
	模擬国連	2	3～4
	国際人権問題	2	3～4
	グローバル化した世界の民族問題	2	3～4
	NPO・NGO論	2	3～4
	グローバル化した世界のメディア論	2	3～4
	平和学	2	3～4
	国際機関とその役割	2	3～4
	ボランティア論	2	3～4
	国際紛争史	2	3～4
	世界の宗教	2	3～4
	北アメリカの文化と歴史	2	3～4
	北アメリカの現代社会事情	2	3～4
	欧州の文化と歴史	2	3～4
	欧州の現代社会事情	2	3～4
	オセアニアの文化と歴史	2	3～4
	オセアニアの現代社会事情	2	3～4
	中近東とアフリカの文化と歴史	2	3～4
	中近東とアフリカの現代社会事情	2	3～4
	中南米の文化と歴史	2	3～4
	中南米の現代社会事情	2	3～4

授業科目表 (つづき)

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次
専門科目 専門発展科目 (コミュニケーション・スタディーズ)	異文化コミュニケーション論	2	3~4
	言語としての英語	2	3~4
	(これら2科目はコミュニケーション・スタディーズを選択した場合は必修科目として履修して下さい。他のスタディーズの学生は選択科目として履修できます。)		
	英語の歴史	2	3~4
	英語圏の文学	2	3~4
	通訳概論	2	3~4
	実務翻訳概論	2	3~4
	ESL言語学	2	3~4
	対人コミュニケーション論	2	3~4
	関西文化の情報発信	2	3~4
	言語使用の原理	2	3~4
	会話と談話の原理	2	3~4
	メディア・リテラシー	2	3~4
	報道のコミュニケーション	2	3~4
	多文化共生社会と言語	2	3~4
	言語と権力	2	3~4
	早期英語教育論	2	3~4
	ネット社会とコミュニケーション	2	3~4
	英語の音声と発音	2	3~4
	コミュニケーションの事例研究	2	3~4
	企業社会とコミュニケーション	2	3~4
	日本文学を英語で読む	2	3~4
	言語と社会	2	3~4
	言語と心	2	3~4
	言語の構造と意味	2	3~4
	日本語の構造	2	3~4
	日本社会のコミュニケーション	2	3~4
	非言語コミュニケーション論	2	3~4
	応用言語学	2	3~4
	言語教育理論	2	3~4
	第二言語習得論	2	3~4

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	アジアの文化	2	3～4	
	アジアの歴史			
	アジアの地理			
	(これら3科目はアジアン・スタディーズを選択した場合は必修科目として履修して下さい。他のスタディーズの学生は選択科目として履修できます。)		2	3～4
	アジアの宗教と思想			
	アジア社会論			
	アジアの文化遺産			
	東アジア文学			
	ASEANの役割			
	韓国の政治と経済			
	中国の政治と経済			
	東南アジアの政治と経済			
	東アジアの中の日本			
	アジアの民族学			
	現代の南アジア			
	日本文化と歴史			
	アジアの政治・外交の歴史と日本			

履修の流れ

グローバル専攻の学生は、下記に示す履修の流れをよく理解して、各学年、各学期の学修の要点を把握し、漫然と卒業要件を満たすのではなく、自らの希望する進路や学問的な興味関心を踏まえつつ、計画的に履修してください。

<第1学年前期の学修>

- (1) この学期は、学生生活全般の計画を立てること、留学の準備と留学を意義あるものにするための学修、そして英語力の向上に全力をそそいでください。
- (2) 教職課程を受講する人は、教職教育部の履修要項をよく読んで、教職課程で指定されている共通教養科目を必ずこの学期に履修するようにしてください。
- (3) 共通教養科目では、大学生活への導入をサポートする必修科目の「基礎ゼミ」を履修します。これに加えて、後期からの留学を考え、自分にとって必要な知識を習得するため、選択科目を積極的に履修してください。
- (4) 専門科目では、学部共通開講科目の「留学セミナー」と「異文化理解」で留学に必要な知識と異文化についての考え方を身につけ、「グローバル化入門」で第3学年後期から始まる専門教育の分野の概要を知ります。これらは必修科目です。
- (5) 重要な注意:「留学セミナー」を履修し単位修得しなければ、後期からの留学には参加できません。学修にしっかり取り組んでください。
- (6) 専門科目の言語科目では、留学に備えて英語力をしっかり身につけます。
- (7) 日本語教員養成課程の修了に必要な共通教養科目の「日本語の技法」と「日本近現代史」は第1学年から開講されます。早いうちに履修することを推奨します。

<第2学年の学修>

- (1) 留学から帰国してから前期終了までの間、セミナー科目の必修科目「帰国後セミナー」を履修して留学の経験を総括します。また、この期間に開講される外国語科目の「TOEIC」を履修することを推奨します。

- (2) 教職課程の受講者は、教職教育部の履修要項をよく読んで、国際学部および教職教育部で開講される必要な科目の履修を再開してください。
- (3) 後期には、共通教養科目の本格的な履修と、外国語科目の履修が始まります（ただし、外国語科目の「TOEIC」は前期に開講）。この履修要項の「**2. 全学共通科目 共通教養科目・外国語科目：卒業・履修要件と授業科目表**」を参照し、自らの関心や将来の進路、進みたい専門分野を考え、計画的に履修してください。「キャリアデザイン1」は、卒業後の進路を考える契機になる科目です。外国語科目は選択科目なので必ずしも履修する必要はありませんが、英語の他に外国語を習得することは将来大きな意味を持つ可能性があるため、各自の希望進路や学修目標に照らして履修するかどうかを決めてください。外国語科目を履修する場合、一言語を選択し、この学期から入門、基礎、中級、上級の順に履修することが望ましいです。
- (4) 専門科目では、学部共通開講科目において、ビジネスや観光、通訳・翻訳の科目の受講が可能になります。また、体験プログラムやインターンシップに関連する科目も開講されます。将来の希望進路を考え、この第2学年後期から履修を開始してください。
- (5) 専門科目の言語科目では、必修科目の「キャリア英語1」、「ディスカッション」、「リーディング・ライティングスキル」が開講されます。各自の指定されたクラスで受講してください。
- (6) グローバル専攻では第3学年以降に一つのスタディーズに所属します。グローバル・スタディーズ、コミュニケーション・スタディーズ、アジア・スタディーズの各スタディーズには定員があり、第3学年進級時にスタディーズ分けを行います。スタディーズ分けの方法は、第2学年後期に専攻で開催する説明会で説明します。スタディーズ分け説明会の案内は、国際学部掲示板で掲示するとともに、学生ポータルサイト（UNIPA）上でも配信します。どのスタディーズを希望するかを決めるために、専門基礎科目を積極的に受講してください。
- (7) 第3学年からはすべての学生が一つの「ゼミ」に所属し、「セミナー1」、「セミナー2」、「セミナー3」、「卒業プロジェクト」を一人の教員の指導のもとで学修します。そのゼミ分けを第2学年後期に行いますので、専攻で開催する説明会に必ず出席してください。

<第3・4学年の学修>

- (1) 第3・4学年では、卒業後の進路を見据え、また、自らの専門性を深められるよう学修計画を立ててください。
- (2) 教職課程の受講者は、引き続き、教職教育部の指示に従って指定された科目を履修し、要件を満たすようにしてください。教員免許を取得する人は、第3学年に介護等体験（中学校のみ）、第4学年に教育実習があります。
- (3) 共通教養科目では、第3学年に「基礎数学1」と「基礎数学2」が開講されます。これらは、文系の大学を卒業した者として社会で必要となる数理的な教養を身につけるための科目です。また、進路とキャリアパスについての考え方を深める「キャリアデザイン2」が開講されます。これらは選択科目ですが、就職活動を行う予定の人は積極的に受講してください。
- (4) 第2学年で外国語科目を受講した人は、引き続き同じ外国語をレベル順に履修してください。
- (5) 専門科目では、学部共通開講科目で、ビジネスや観光、通訳・翻訳の科目に加えて、英米文学、日本語・日本語教育に関する科目が開講されます。日本語教員養成課程の受講者は、「日本語教授法1」、「日本語教授法2」、「日本語学」、「日本語教育実習」を履修してください。
- (6) セミナー科目では、第2学年後期のゼミ分けの結果にしたがって、必修の「セミナー1」と「セミナー2」（第3学年）、「セミナー3」と「卒業プロジェクト」（第4学年）を受講し、担当の教員の指導を受けながら専門性を深め、研究を行い、課題を完成させます。
- (7) 言語科目では、第3学年前期には必修科目の「キャリア英語2」、「ディベート」、「アカデミック英語」が開講され、第3学年後期には必修科目の「アカデミック研究英語」と選択科目の「プレゼンテーションスキル上級」と「交渉のスキル」が開講されます。選択科目の2科目は、上級者向けの科目です。
- (8) 専門科目の専門発展科目では、グローバル・スタディーズ、コミュニケーション・スタディーズ、アジア・スタディーズのいずれかに所属し、所属するスタディーズの必修科目および選択科目を受講していきます。卒業までに自らが所属するスタディーズで修得しなければならないのは20単位（必修科目を含む）です。これらに加えて、自らの希望進路や学問の興味・関心に応じた科目を積極的に履修し、卒業要件を満たすようにしてください。

(2) 東アジア専攻 中国語コース

卒業・履修要件

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	30単位以上（必修単位を含む） ※詳しくは、「全学共通科目：共通教養科目・外国語科目 卒業・履修要件と授業科目表」のページを確認のこと。	
	外国語科目		
専門科目	学部共通開講科目	6単位以上 （必修科目を含む）	100単位以上
	セミナー科目	8単位	
	言語科目	19単位以上 （必修科目を含む）	
	留学科目	2～32単位	
	専門発展科目	18単位以上 （必修単位を含む）	
合計（卒業所要単位数）		130単位以上	

進級要件

1学年→2学年	2学年→3学年	3学年→4学年
20単位以上	56単位以上	92単位以上

授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次
セミナー科目	帰国後セミナー（必修科目）	1	2～4
	セミナー1（必修科目）	1	3～4
	セミナー2（必修科目）	1	3～4
	セミナー3（必修科目）	1	4
	卒業プロジェクト（必修科目）	4	4
専門科目 言語科目	中国語入門（文法）1（必修科目）	1	1～4
	中国語入門（文法）2（必修科目）	1	1～4
	中国語入門（文法）3（必修科目）	1	1～4
	中国語入門（会話）1（必修科目）	1	1～4
	中国語入門（会話）2（必修科目）	1	1～4
	中国語表現1（必修科目）	1	1～4
	中国語表現2（必修科目）	1	1～4
	英会話1（必修科目）	1	2～4
	中国語会話上級（必修科目）	1	2～4
	中国語文法上級（必修科目）	1	2～4
	英会話2（必修科目）	1	3～4
	中国語プレゼンテーション1（必修科目）	1	3～4
	中国語演習（読読作文）1（必修科目）	1	3～4
	英会話3（必修科目）	1	3～4
	中国語プレゼンテーション2（必修科目）	1	3～4
	中国語演習（読読作文）2（必修科目）	1	3～4

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	言語科目	中国語表現技法 1	1	2~4
		ビジネス中国語 1	1	2~4
		中国語表現技法 2	1	3~4
		ビジネス中国語 2	1	3~4
		HSK・中検	1	3~4
		華語測驗	1	4
	留学科目	中国語文法（初級） 1	2	1~4
		中国語文法（初級） 2	2	1~4
		中国語文法（初級） 3	2	1~4
		中国語会話（初級） 1	2	1~4
		中国語会話（初級） 2	2	1~4
		中国語会話（初級） 3	2	1~4
		中国語作文（初級）	2	1~4
		English Grammar A	1	1~4
		English Conversation A	1	1~4
		中国語文法（中級） 1	2	2~4
		中国語文法（中級） 2	2	2~4
		中国語文法（中級） 3	2	2~4
		中国語会話（中級） 1	2	2~4
		中国語会話（中級） 2	2	2~4
		中国語会話（中級） 3	2	2~4
		中国語作文（中級）	2	2~4
		English Grammar B	1	2~4
	English Conversation B	1	2~4	
	専門発展科目	中国学研究法（必修科目）	2	2~4
		中国近現代史 1	2	2~4
		中国映像文化論	2	2~4
		日中比較文学	2	2~4
		中国語学概論	2	2~4
		中国現代文学	2	2~4
		中国近現代史 2	2	3~4
		中国現代文化	2	3~4
		日中異文化コミュニケーション	2	3~4
中国語方言学		2	3~4	
中国当代文学	2	3~4		
グローバル専攻アジア・スタディーズの科目	P30参照			

履修の流れ

東アジア専攻中国語コースの学生は、下記に示す履修の流れをよく理解して、各学年、各学期の学修の要点を把握してください。

<第1学年前期の学修>

- (1) 共通教養科目では、大学生活への導入をサポートする「基礎ゼミ」(必修)の他にも、後期からの留学で役立つ知識を扱う選択科目が開講されていますので積極的に履修してください。
- (2) 学部共通開講科目の「留学セミナー」と「異文化理解」(ともに必修)は、留学準備と留学に必要な知識と異文化についての考え方を身につけ、「グローバル化入門」(必修)は、第3学年後期から始まる専門教育の分野を知るための科目です。
- (3) 重要な注意:「留学セミナー」を履修し単位修得しなければ、後期からの留学には参加できません。学修にしっかり取り組んでください。
- (4) 言語科目では、留学に備えて中国語の学習を基礎から始め、現地での留学生活をスムーズに始められるよう中国語能力を徹底的に鍛えます。この学期は、中国語の学習に全力を挙げてください。
- (5) 日本語教員養成課程の修了に必要な共通教養科目の「日本語の技法」と「日本近現代史」は第1学年から開講されます。早いうちに履修することを推奨します。

<第2学年の学修>

- (1) 留学を終えて帰国後、第2学年後期より、「帰国後セミナー」(セミナー科目:必修)を履修して留学の経験を総括し、さらに今後の学修について考えていきます。
- (2) 後期では、共通教養科目の本格的な履修と、外国語科目の履修が始まります。この履修要項の「**2. 全学共通科目 共通教養科目・外国語科目:卒業・履修要件と授業科目表**」を参照してください。外国語科目は選択科目ですから必ずしも履修する必要はありませんが、中国語や英語以外の外国語を習得することは重要ですので、一言語を選択してこの学期から入門、基礎、中級、上級の順に履修することを推奨します。
- (3) また、東アジア専攻中国語コースでは、留学で培った中国語能力にさらに磨きをかけるため、中国語上級レベルの科目を受講します。

<第3・4学年の学修>

- (1) 第3・4学年では、卒業後の進路を見据え、また、自らの専門性を深められるよう学修計画を立ててください。
- (2) 共通教養科目では、第3学年に「基礎数学1」と「基礎数学2」が開講されます。これらは、文系の大学を卒業した者として社会で必要となる数理的な教養を身につけるための科目です。また、進路とキャリアパスについての考え方を深める「キャリアデザイン2」が開講されます。これらは選択科目ですが、就職活動を行う予定の人は積極的に受講してください。
- (3) 第2学年で外国語科目を受講した人は、引き続き同じ外国語をレベル順に履修してください。また、外国語科目の「TOEIC」を履修することを推奨します。
- (4) 専門科目では、学部共通開講科目で、ビジネスや観光、通訳・翻訳の科目に加えて、英米文学、日本語・日本語教育に関する科目が開講されます。日本語教員養成課程の受講者は、「日本語教授法1」、「日本語教授法2」、「日本語学」、「日本語教育実習」を履修してください。
- (5) セミナー科目では、第2学年後期のゼミ分けの結果に従って、必修の「セミナー1」と「セミナー2」(第3学年)、「セミナー3」と「卒業プロジェクト」(第4学年)を受講し、担当の教員の指導を受けながら専門性を深め、研究を行い、課題を完成させます。

(3) 東アジア専攻 韓国語コース

卒業・履修要件

科目区分		修得すべき単位数	
全学共通科目	共通教養科目	30単位以上（必修単位を含む） ※詳しくは、「全学共通科目：共通教養科目・外国語科目卒業・履修要件と授業科目表」のページを確認のこと。	
	外国語科目		
専門科目	学部共通開講科目	6単位以上 （必修科目を含む）	100単位以上
	セミナー科目	8単位	
	言語科目	19単位以上 （必修科目を含む）	
	留学科目	2～32単位	
	専門発展科目	18単位以上 （必修単位を含む）	
合計（卒業所要単位数）		130単位以上	

進級要件

1学年→2学年	2学年→3学年	3学年→4学年
20単位以上	56単位以上	92単位以上

授業科目表：セミナー科目・言語科目・留学科目・専門発展科目

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次
セミナー科目	帰国後セミナー（必修科目）	1	2～4
	セミナー 1（必修科目）	1	3～4
	セミナー 2（必修科目）	1	3～4
	セミナー 3（必修科目）	1	4
	卒業プロジェクト（必修科目）	4	4
専門科目 言語科目	韓国語入門（文法） 1（必修科目）	1	1～4
	韓国語入門（文法） 2（必修科目）	1	1～4
	韓国語入門（文法） 3（必修科目）	1	1～4
	韓国語入門（会話） 1（必修科目）	1	1～4
	韓国語入門（会話） 2（必修科目）	1	1～4
	韓国語表現 1（必修科目）	1	1～4
	韓国語表現 2（必修科目）	1	1～4
	英会話 1（必修科目）	1	2～4
	韓国語会話上級（必修科目）	1	2～4
	韓国語文法上級（必修科目）	1	2～4
	英会話 2（必修科目）	1	3～4
	韓国語プレゼンテーション 1（必修科目）	1	3～4
	韓国語演習 1（必修科目）	1	3～4
	英会話 3（必修科目）	1	3～4
	韓国語プレゼンテーション 2（必修科目）	1	3～4
	韓国語演習 2（必修科目）	1	3～4

授業科目表（つづき）

科目区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	
専門科目	言語科目	韓国語表現技法 1	1	2~4
		ビジネス韓国語 1	1	2~4
		韓国語表現技法 2	1	3~4
		ビジネス韓国語 2	1	3~4
		ハングル能力検定	1	3~4
		TOPIK	1	4
	留学科目	韓国語文法（初級） 1	2	1~4
		韓国語文法（初級） 2	2	1~4
		韓国語文法（初級） 3	2	1~4
		韓国語会話（初級） 1	2	1~4
		韓国語会話（初級） 2	2	1~4
		韓国語会話（初級） 3	2	1~4
		韓国語作文（初級）	2	1~4
		English Grammar A	1	1~4
		English Conversation A	1	1~4
		韓国語文法（中級） 1	2	2~4
		韓国語文法（中級） 2	2	2~4
		韓国語文法（中級） 3	2	2~4
		韓国語会話（中級） 1	2	2~4
		韓国語会話（中級） 2	2	2~4
		韓国語会話（中級） 3	2	2~4
		韓国語作文（中級）	2	2~4
	English Grammar B	1	2~4	
	English Conversation B	1	2~4	
	専門発展科目	現代韓国の理解（必修科目）	2	2~4
		韓国近現代史 1	2	2~4
		韓国学概論 1	2	2~4
		日韓通・翻訳実践 1	2	2~4
		日韓比較研究 1	2	2~4
		異言語と文化 1	2	2~4
韓国近現代史 2		2	3~4	
韓国学概論 2		2	3~4	
日韓通・翻訳実践 2		2	3~4	
日韓比較研究 2		2	3~4	
異言語と文化 2		2	3~4	
グローバル専攻アジアン・スタディーズの科目		P30参照		

履修の流れ

東アジア専攻韓国語コースの学生は、下記に示す履修の大まかな流れをよく理解して、各学年、各学期の学修の要点を把握してください。

<第1学年前期の学修>

- (1) 共通教養科目では、大学生活への導入をサポートする「基礎ゼミ」(必修)の他にも、後期からの留学で役立つ知識を扱う選択科目が開講されているので積極的に履修してください。
- (2) 学部共通開講科目の「留学セミナー」と「異文化理解」(ともに必修)は、留学準備と留学に必要な知識と異文化についての考え方を身につけ、「グローバル化入門」(必修)は、第3学年後期から始まる専門教育の分野を知るための科目です。
- (3) 重要な注意:「留学セミナー」を履修し単位修得しなければ、後期からの留学には参加できません。学修にしっかり取り組んでください。
- (4) 言語科目では、留学に備えて韓国語の学習を基礎から始め、現地での留学生活をスムーズに始められるよう韓国語能力をしっかり身につけます。この学期は、韓国語の学習に全力を挙げてください。
- (5) 日本語教員養成課程の修了に必要な共通教養科目の「日本語の技法」と「日本近現代史」は第1学年から開講されます。早いうちに履修することを推奨します。

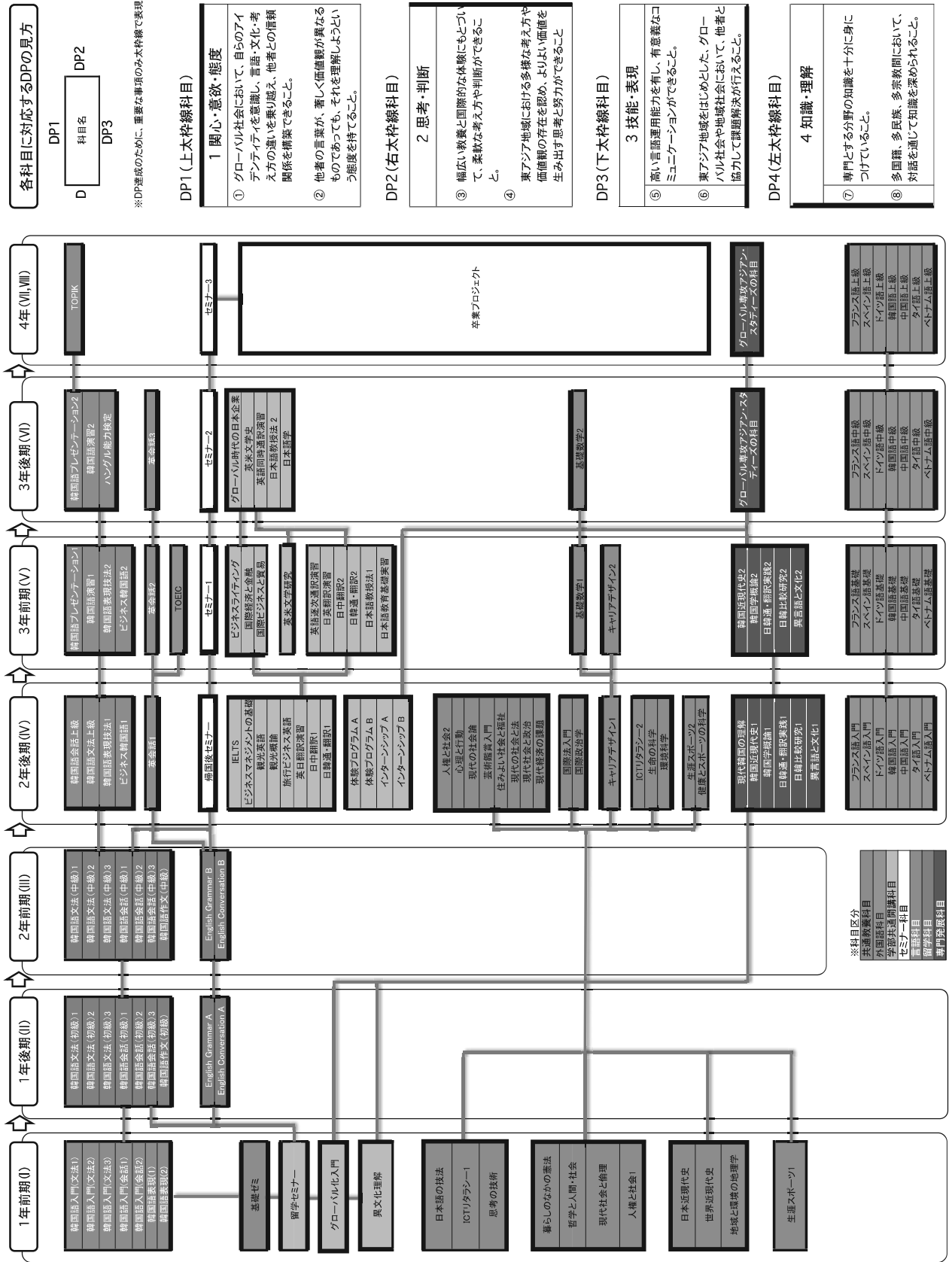
<第2学年の学修>

- (1) 留学を終えて帰国後、第2学年後期より、「帰国後セミナー」(セミナー科目:必修)を履修して留学の経験を総括し、さらに今後の学修について考えていきます。
- (2) 後期では、共通教養科目の本格的な履修と、外国語科目の履修が始まります。この履修要項の「**2. 全学共通科目 共通教養科目・外国語科目:卒業・履修要件と授業科目表**」を参照してください。外国語科目は選択科目ですから必ずしも履修する必要はありませんが、韓国語や英語以外の外国語を習得することは重要ですので、一言語を選択してこの学期から入門、基礎、中級、上級の順に履修することを推奨します。
- (3) また、東アジア専攻韓国語コースでは、留学で培った韓国語能力にさらに磨きをかけるため、韓国語上級レベルの科目を受講します。

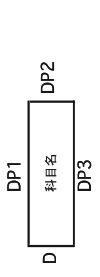
<第3・4学年の学修>

- (1) 第3・4学年では、卒業後の進路を見据え、また、自らの専門性を深められるよう学修計画を立ててください。
- (2) 共通教養科目では、第3学年に「基礎数学1」と「基礎数学2」が開講されます。これらは、文系の大学を卒業した者として社会で必要となる数理的な教養を身につけるための科目です。また、進路とキャリアパスについての考え方を深める「キャリアデザイン2」が開講されます。これらは選択科目ですが、就職活動を行う予定の人は積極的に受講してください。
- (3) 第2学年で外国語科目を受講した人は、引き続き同じ外国語をレベル順に履修してください。また、外国語科目の「TOEIC」を履修することを推奨します。
- (4) 専門科目では、学部共通開講科目で、ビジネスや観光、通訳・翻訳の科目に加えて、英米文学、日本語・日本語教育に関する科目が開講されます。日本語教員養成課程の受講者は、「日本語教授法1」、「日本語教授法2」、「日本語学」、「日本語教育実習」を履修してください。
- (5) セミナー科目では、第2学年後期のゼミ分けの結果に従って、必修の「セミナー1」と「セミナー2」(第3学年)、「セミナー3」と「卒業プロジェクト」(第4学年)を受講し、担当の教員の指導を受けながら専門性を深め、研究を行い、課題を完成させます。

東アジア専攻 韓国語コース カリキュラム・ツリー



各科目に対応するDPの見方



※DP達成のために、重要な事項のみ太枠線で表現

DP1 (上太枠線科目)

- 1 関心・意欲・態度
- ① グローバル社会において、自らのアイデンティティを認識し、言語・文化・考え方の違いを乗り越え、他者との信頼関係を構築できること。
 - ② 他者の言葉が、著しく価値観が異なるものであっても、それを理解しようという態度を持てること。

DP2 (右太枠線科目)

- 2 思考・判断
- ③ 幅広い教養と国際的な体験にもとづいて、柔軟な考え方や判断ができること。
 - ④ 東アジア地域における多様な考え方や価値観の存在を認め、よりよい価値を生み出す思考と努力ができること。

DP3 (下太枠線科目)

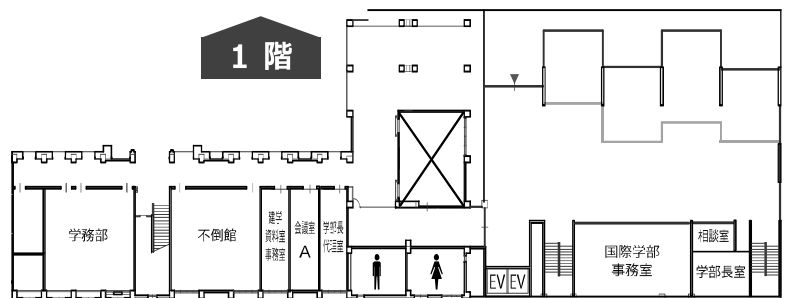
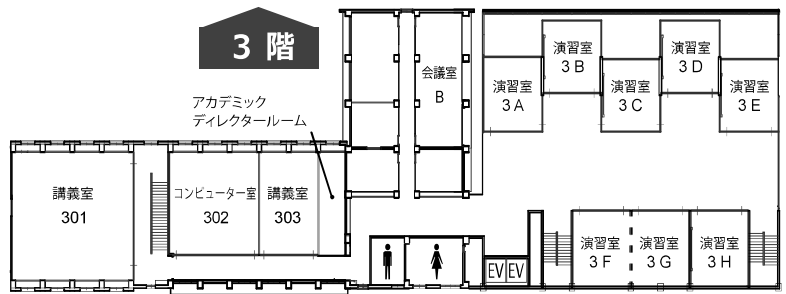
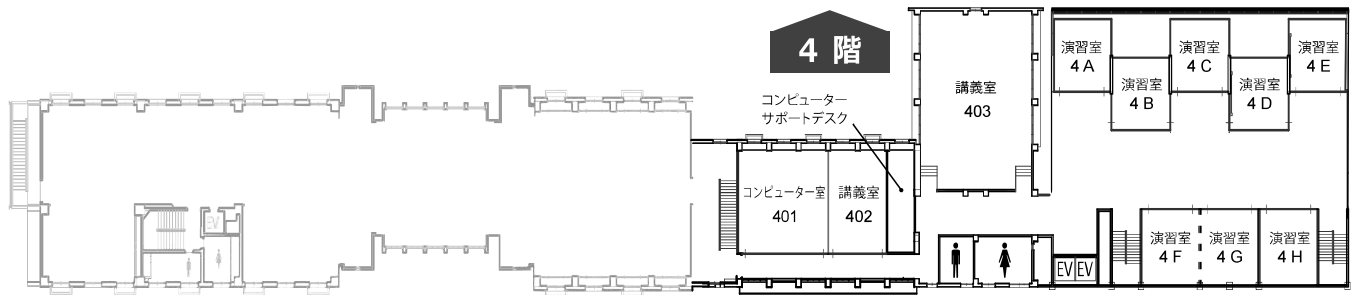
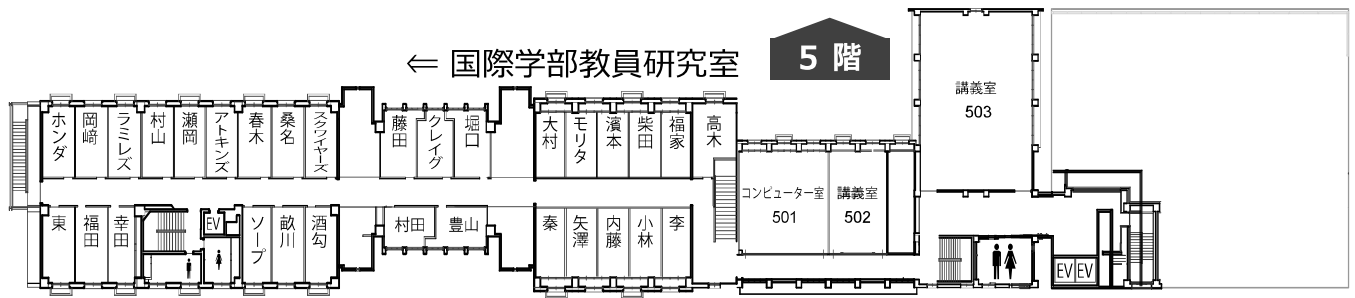
- 3 技能・表現
- ⑤ 高い言語運用能力を有し、有意義なコミュニケーションができること。
 - ⑥ 東アジア地域をはじめとした、グローバル社会や地域社会において、他者と協力して課題解決が行えること。

DP4 (左太枠線科目)

- 4 知識・理解
- ⑦ 専門とする分野の知識を十分に身につけていること。
 - ⑧ 多国籍・多民族・多宗教間において、対話を通じて知識を深められること。

※科目区分
共通教養科目
外国語科目
専攻共通開講科目
セミナー科目
言語科目
専門発展科目

VIII 校舎・講義室等の配置図 (18号館)



教員研究室一覧

研究室No	氏名
N501	Lisa Honda ホンダ リサ(本田里沙)
N502	岡崎 享恭
N503	Carlos Ramirez ラミレス カルロス
N504	村山 綾
N505	瀬岡 直
N506	Andrew Atkins アトキンズ アンドリュー
N507	春木 茂宏
N508	桑名 恵
N509	Todd Squires スクワイヤーズ トッド
N511	藤田 直也
N512	Virgil Craig クレイグ ヴァージル
N513	堀口 良一
N515	大村 吉弘
N516	Emma Morita モリタ エマ
N517	濱本 秀樹
N518	柴田 直治
N519	福家 道信
N520	高木 宏幸
N521	東 聖子
N522	福田 裕大
N523	幸田 直子
N524	Todd Thorpe ソープ トッド
N525	畝川 憲之
N526	酒匂 康裕
N528	村田 みお
N529	豊山 亜希
N531	秦 辰也
N532	矢澤 知行
N533	内藤 能
N534	小林 一雅
N535	李 潤玉

時間割表（履修科目を検討する際に活用して下さい。）

	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限
月							
火							
水							
木							
金							
土							

国際学部履修要項 2018

2018.4 印刷発行

発行者 近畿大学 国際学部
編集 近畿大学 国際学部

所在地 〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1
電話番号 (06) 4307-3104

インターネット版シラバス

下記のアドレスでシラバスを公開しています。

<http://www.kindai.ac.jp/campus-life/syllabus/index.html>

※専攻名以外にも、キーワードや、開講年次、単位、開講期、科目区分、必修・選択の別などの科目属性からシラバスを検索することができます。

✿ 近畿大学
